

### 日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4) ジョホール州における終戦50年後のインタ ビューより：ならびに(全体解説)

吉村, 真子 / ヨシムラ, マコ / YOSHIMURA, Mako

---

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究

(巻 / Volume)

44

(号 / Number)

3-4

(開始ページ / Start Page)

197

(終了ページ / End Page)

117

(発行年 / Year)

1998-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00018878>

#### 日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

有のゴム・エステートは、講和条約で日本資産処分方法が最終的に決定されるまでマラヤ・シンガポール両政府の任命した専任経営者の管理下に置かれ、1951年から55年にかけて敵産管財官によって競売にかけられた。トゥロック・スンガッ・エステートは、1951年にペナンの有力な実業家・連裕祥(Heah Joo Seang)によって購入されている(これについては、原不二夫「日本とマレーシア経済——第2時大戦直後の賠償問題決着の経緯とその経済的意義——」原不二夫編『マレーシアにおける企業グループの形成と再編』(アジア経済研究所, 1994年), 176-177頁を参照されたい)。

- 3) ここはおもに林博史『華僑虐殺』(すずさわ書店, 1992年)第1章および第6章, および林博史「解説1 ネグリセンピラン州における日本軍の肅正について」(高嶋伸欣・林博史編集・解説『マラヤの日本軍』青木書店)による。
- 4) 第25軍の華僑対策の方針は「華僑工作実施要領」に示されており, 最初にある「趣旨」として「華僑の動向に重大なる関心を持ち之か誘引工作を以て華僑対策の大部分なりとせるは既に過去のこと属す」, 「占領地内に於ける彼等自らを以て決せしめ服従を誓ひ協力を惜しまざるの動向を取る者に対しては其の生業を奪はず權益を認め 然たさる者に対しては断乎其の生存を認めざるものとす」としている(林博史, 同上書, 50頁)。
- 5) 第2野戦憲兵隊と歩兵2個大隊を合わせて編成された。
- 6) 華語資料として, 許唯心編『華僑殉難義烈史(新山・高打合編部)』(柔仏新山区中華公会, 1947年), 許唯心編『華僑殉難義烈史(峇株之部)』(パトゥ・パハッ中華公会, 1946年), および許鍛『南島風伝』(ムアー, 南強印務局, 1949年)がある。
- 7) 林博史, 前掲書, 第6章, および前掲「解説」187-189頁。
- 8) これについては, 原不二夫, 前掲論文に詳しい。
- 9) 林博史, 前掲書, 23-24頁。
- 10) ここについては, 1995年8月, 96年8月および97年8月にクアラ・ルンプルのマレーシア中華大会堂連合会におけるヒアリングおよび同連合会提供の文書および資料による。

残虐行為の直接的被害を受けた人の中には、個人賠償を求める人もおり、中華連合会もそうした個人賠償の要求の運動を否定するものではない。ただ、華人団体としては、終戦50年がたった現在において、実際の被害者は家族ごと虐殺された人もおり、遺族も亡くなっている可能性も高い。そうした賠償対象とする被害者（虐殺された人やその遺族も含めて）の存在を確定するのも難しい状況で、個人賠償を求める実効性と日本政府の受けうる形を考えて、「華人社会のための基金」という形をとっているともいえよう。国家賠償は済んでいるとする日本政府の立場からすると、こうした要求に対する文書に公式に対応できないというのは理解できるが、日本政府がきちんと受け止めうるラインを考えての要求と見ることも必要であろう。5千万ドルの献金（奉納金）強制については否定できない史実であり、それは個人・民間から強制的に没収したものである。当時と現在の貨幣価値を比較しても、5億リンギットはきわめて控えめな数字である。また「我々の立場」でも、1995年の「覚え書き」でも強調されているように、今回の「覚え書き」は単に賠償を要求するものではなく、日本政府の平和に対する姿勢を問うたものである。日本政府は、こうしたマレーシアの華人社会からの要求や批判に対して真摯に耳を傾ける姿勢が必要であろう。

— 完 —

注

- 1) Special Thanks to the Interviewees and People in Telok Sengat, Kota Tinggi, Johor; Mr. Taufek Yahya, Boustead Estate Agency Sdn. Bhd.; Mr. Choo Im Fah, Manager, all the Staff and Workers, Telok Sengat Estate.
- 2) トゥロック・スンガット・エステートについては、「日本軍政下のマラヤのエステートの村民(1)」『社会労働研究』を参照されたい。なお、旧日本人所

しかしながら、マレーシアの華人団体の「覚え書き」に対する返事は何らなかった。

翌96年には、マレーシア中華大会堂連合会は、それぞれの幫（パン）による華人団体7団体を加えた8団体の名前で、再度日本の橋本竜太郎首相に対して「覚え書き」を送っている。しかも「対日賠償要求覚え書き」（華語では「対日索賠各忘録」、英文では Memorandum of Compensation Demand to the Japanese Government である）として、大戦中の華人社会の被害に対する賠償の金額と内容について具体的に記したものを送っている。しかしながら、96年の「覚え書き」に対しても、日本政府および日本大使館の返答はなく、97年も重ねて96年と同内容の「覚え書き」を送っている。

華人団体の「対日賠償要求覚え書き」の内容は、閣僚の靖国参拝問題や戦没者遺族会とのつながりなど、史実を否定する反動的な動きと連動している日本政府への懸念に始まり、華人社会として「われわれの立場」として、第1に日本は大戦で被害を与えた国と人々に公式謝罪をし、賠償をすべきこと、第2に日本の歴史上の真実を歪め、歴史教育も含めて歴史を書き換えようとする動きに対して抗議すること、第3に日本が行った侵略行為を徹底的に検証して、軍国主義を払拭することを公約すべきこと、第4に日本が世界の平和を守るという誠意をはっきりと示し、具体的な貢献をすべきこと、の4つを示している。その上で「我々の要求」として、華人社会から強制的に取り上げた5千万ドルの「奉納金（献金）」に対して日本政府がマレーシアの華人社会に、民間を対象として5億リングギットを支払い、華人社会のための基金とすることを要求している。

マレーシアの華人団体は、被害を受けたのはおもに華人社会であるから華人社会に対して賠償してほしい、それも個人賠償という形でなくて、基金という形でとくに若者や次世代に対して奨学金制度や専門学校などの教育やプロジェクトに向けたいとしている。もちろん、日本軍の

最大の相手国である日本との関係は、経済開発優先の政策からも将来の経済関係を第一に考えている。1982年の教科書問題の際には「教科書で（侵略、残虐行為を軽く扱うという）そういう記述の仕方をすれば（日本が）多くの人を殺し、多くの残虐行為について責任があるということを、日本人が理解しなくなる」と日本政府の姿勢を批判したマハティール首相も、1990年代には「謝罪するばかりでなく、将来のアジアの発展のために責任を果たすべきだ」として、日本の経済・外交面での役割を強調している。華人団体が犠牲者のコミュニティとして、日本政府の謝罪と賠償を求めているのに対して、マレー系優先の政策や戦後の政治家に親日家がいたこともあってか、政府が華人団体に同調して発言をすることはない。メディアにおいても同様に、華語紙が、1995年などの機会に応じて毎年8月15日が近くなると日本軍の残虐行為や第2次世界大戦についての記事を載せて特集を組むのに対して、マレーシア語や英語のメディアで、日本軍の残虐行為について触れられることはほとんどない。1995年8月15日の村山富市首相（当時）の公式謝罪についても、TVでも新聞でも国際ニュースのコーナーで触れた程度で、トップニュースの扱いではなかった。

#### 〈マレーシアの華人団体の要求<sup>10)</sup>〉

マレーシアの華人団体が、日本政府に対して求めていることは公式の謝罪とそれに基づく国による賠償である。日本の降伏によって戦争が終わった1945年から50年たった1995年、8月10日付けでマレーシアの全国の華人団体の代表であるマレーシア中華大会堂連合会（馬來西亞中華大會堂聯合會）は、クアラ・ Lumpur の日本大使館（野村一成大使）を通じて、日本の村山富市首相（当時）に対して、公式謝罪と賠償金の支払いおよび平和への努力を求める「覚え書き（Memorandum）」を送っている。1995年8月15日に村山首相は、戦後初めて公式に、第2次世界大戦における侵略と占領についてアジアの人々に謝罪した。

にあたって中国人とマレー人の民族対立を利用し、煽り立てたこと、である<sup>7)</sup>。

またマラヤにおける日本軍政の悪政として名高いのは、「5千万円献金強制事件」である。これは、1942年3月にマラヤの華僑に対して「軍費並に統治資金の調達命令」として「最低5千万円の資金調達」を命じたものであるが、マラヤの中国人に対して強制的に財産や金を集めさせ、これによる被害者も数多く、賠償を求める声も多い。

#### 〈戦後のマレーシアにおける動き〉

シンガポールの「大検証」やマラヤの華僑肅正（虐殺）および「5千万円献金強制事件」について、マレーシアで大きく取り上げられたのは、戦後の歴史の中で3度ある。最初は戦後直後の1946、47年に行われた戦争裁判との係わりで調査が行われ、その事実が広く報道されたときである。2度目が1960年代半ばで、シンガポールで虐殺された人たちの遺骨が大量に見つかり、その賠償を要求する運動が起きた。その運動がマレーシアにも波及し、「血債」（虐殺の犠牲者への賠償）を要求する運動がマレーシア各地で起きたが、67年に日本がわずかの賠償を行うことで終息をみた。その賠償とは、マレーシアに対しては貨物船2隻、29億4000万円、シンガポールに対しては造船所の建設や機械類などに同額の29億4000万円だけだった<sup>8)</sup>。犠牲者の遺族には何も渡っていないのである。3番目が、1982年に国際問題化したいわゆる教科書問題である。日本のアジア「侵略」を「進出」に書き換えられたり、アジアの侵略という歴史を否定する日本の政府の動きは、中国や韓国からの批判として外交問題化していった。その際、マレーシア、とくに華人社会でもこの問題は大きな反響を引き起こしていき、各地の動きとなっていく、ヌグリ・スンビラン州の華人虐殺についての聞き取り調査などが進められたのも、この時期である<sup>9)</sup>。

しかしながら、マレーシア政府の方針としては、投資・貿易において

川村参郎少将（第5師団第9旅団長）は「適性と断じたものは即時嚴重に処分（死刑）せよ」として掃討作戦を命じられ、2月21日から3日間でシンガポールの中国人の検問を行い、かなりの数の住民を人相と服装程度で「適性華僑」としてトラックで郊外に運び、射殺した。これがシンガポールの「大検証」である。このシンガポールの「大検証」によって虐殺された中国人は、4-5万人とも言われている。

マレー半島においても、各地で日本軍による中国人虐殺が行われている。千数百名が殺されたというマラッカ、千人以上というペナンのほか、ヌグリ・スンビラン州では4千人以上が殺害されたといわれている。そしてジョホール州では、4千人以上が殺されたといわれるコタ・ティンギ、約2千人以上というジョホール・バルをはじめとしてバトゥ・パハッ、ムアーなどで大量の住民虐殺が行われている。コタ・ティンギ、ジョホール・バル、バトゥ・パハッ、ムアーにおける日本軍政における中国人虐殺については、マレーシアの現地で戦後まもない時期に報告書が出されている<sup>6)</sup>が、日本軍の側の動向はわかっていない。

マラヤ、シンガポールにおける住民虐殺は、日本軍の残虐行為として重大なる戦争犯罪であり、シンガポールの虐殺は、南京大虐殺に告ぐ大きな残虐事件であり、東京裁判でも戦争犯罪として取り上げられ、マレー半島各地における住民虐殺については、シンガポール、クアラ・ Lumpur、ペナンなどマラヤ各地でイギリス軍によって行われたBC級戦争犯罪裁判で取り上げられた。

マラヤにおける華僑（中国人）肅正（虐殺）の特徴について、林博史はヌグリ・スンビラン州の華僑肅正を検証した後、以下のようにまとめている。

まず第1に肅正が戦闘終了後に行われた組織的計画的なものだったこと、第2に非武装で無抵抗の人々を殺戮したこと、第3に住民の殺害は「現地処分」あるいは「嚴重処分」として何の法的手続きなしに現場の部隊長の即決で処刑してしまっていること、第4に日本軍は肅正

#### 日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

スガッ村)もあり、そうしたケースでは村の人も日本軍から配慮されているようであった。エステートの労働者や近隣の村民で、日本人スタッフの具体的な名前を挙げて話をする人もおり、その子ども達を可愛がってくれたスタッフと同じ日本人が、軍隊としてやってきて、村民を虐待していくことはどんな印象をもたらしたのだろうか、とも思わされた。

#### 〈マラヤにおける日本軍政と華人虐殺<sup>3)</sup>〉

日本軍は、1941年12月8日未明に、マレー半島東部のコタ・バルに上陸し、シンガポールに向かって南下をし、1942年1月31日にマレー半島南端のジョホール・バルに到達し、2月8日シンガポールに上陸、15日にはシンガポールを陥落させている。コタ・バル上陸は、真珠湾攻撃より数時間早く、アジア太平洋戦争の始まりは、実際には東南アジアのマラヤ(マレーシア)に始まっているのである。

マラヤは、1940年時点で人口約550万人、うち中国人235万人、マレー人228万人、インド人74万人、その他で構成されている。他の東南アジア地域に比べて中国人は、1937年に日本が中国への全面的な侵略戦争を始めると、中国本国への献金、日貨排斥をはじめとする抗日救国運動を展開、シンガポールは東南アジア地域の抗日救国運動の中心となった。そのため日本に対する反発は非常に強かった。また中国人はマラヤの経済の中心的担い手であり、マラヤ占領の成否は、華僑(中国人)対策にかかっていたといっても過言ではなかった。

当初、日本の「華僑対策」は、占領地における華僑の経済力を占領に利用しようという観点から、華僑に「協調同調」させようという方針であったが、マラヤ占領を担当した第25軍の華僑対策の方針は、華僑を「協力同調」させる積極的誘引工作を否定し、日本軍に協力しない者はその生存を認めないという強硬な姿勢を採っている<sup>4)</sup>。

シンガポール占領からまもなく、シンガポール警備隊<sup>5)</sup>長に任命された

りが食料不足と栄養失調で亡くなっている。しかしながら、戦争によってそうした悲惨な境遇がもたらされたにもかかわらず、「日本軍から食料を分けてほしいと頼まれたので分けてあげた」とか、「お別れを言いに来たのでお別れを言った」といった彼らの人柄の良さは印象的である。現在、彼らは陸上で生活しているが、魚を捕って、トゥロック・スンガッ村の華人の店に売って、暮らしている。彼らはイスラム教徒でないために、マレーシア政府のオラン・アスリへの支援対策の対象からも漏れている印象を受けるが、教育水準がどんどん上昇しているマレーシアにおいて、その子ども達が初等教育さえ受けていないことは、その将来に影響しようし、戦時中の苦勞からその戦後を考えるに、複雑なものがあった。

今回のインタビューで取り上げた村々は、近隣の村であり、それらの村民たちは物の売買などでも行き来がある場合も多い。中国人コミュニティとマレー人コミュニティとの関係を考えて、タンジュン・ブアイの村民はランピンの村の中国人店に食料を買いに来ていて、その中国人虐殺の開始に出くわしたり、ランピンの村で日本軍の皆殺しの現場から逃げ出した阿センが、マレー人の漁師に助けられて、タンジュン・ブアイ村に連れてこられたり、といった出来事が思い浮かぶ。しかし、それでも村のコミュニティやエスニシティの違いを超えての行き来が盛んであるとは思えなかった。日本軍に対する印象も、微妙に異なるのだろうと思う。さらに、とくにマレー人の場合は女の子は家にいるものとされたためか、同じぐらいの年代でも、子供時代や青年時代の周囲の出来事に対する情報量が男女（ジェンダー）で異なっていることも指摘できる。

日本人によって所有、経営されていたエステートで働いていた労働者にとって、日本人は身近な存在でもあった。戦争が始まって、日本人スタッフが引き上げていく際に、日本人のエステート・マネージャーが村長に対して身元保証の手紙を書いて置いていったケース（トゥロック・

して、村から森(ジャングル)に逃げ込む中国人も多かった。

ジョホール州コタ・ティンギは、マレー半島でもっとも華人虐殺の犠牲者が多いところであり、この地域でも村ごと皆殺しにされたケースがあり、今回のインタビューでもランピンの村民虐殺、スンビランの村民虐殺のケースなどが出てきている。そうしたケースでは、日本軍が突然やってきて、村人を集めて殺害するという共通性をもっているが、その殺害の対象となった村においてコミunistがいたという証拠もなく、日本軍に対して妨害活動や破壊活動、抵抗運動をしていたという状況はみとめられない。「コミunistがいると言う情報があったのだろう」とか、「村の人がライフルを持っていたために疑われた」とか、「エステートに対して盗みを働いた疑いがあった」とか、そのいずれにしても、武器も持っていない一般の村民が、何の手続き(逮捕されて取り調べを受けて、処分が決められるといった)も経ず、無抵抗のまま殺されているのが実際であり、虐殺の犠牲者には女性や子どもや赤ん坊も含まれている。

他方マレー人は、日本軍政下でそのエリート層は重用されたと言われるが、ここでも村長を通して若い男性は日本軍へ入隊させられたりしたケース(タンジュン・ブアイ村)もあり、そこでは「日本はすばらしい国だ」とか、「マラヤは日本とやっていくのだ」という日本兵の主張に共感している当時のマレー青年の様子も出てきている。しかし、日本軍の残虐行為に対しては、理由もなく村民を殺し、場合によってはそれを自慢したり、犠牲者の遺体や首をさらして、村民に対して強さを誇示しようとする日本軍のやり方に恐怖する村民の様子が出てきている。

今回のインタビューの中で異色ともいえるのは、トゥロック・スンガッ村の川向こうに住んでいるオラン・アスリに対するインタビュー((3)のインタビュー10)である。彼らは舟の中で暮らしていたが、日本軍によって陸に強制移住させられている。生活環境を変えさせられたのみならず、食料にも窮し、タピオカなどを植えたが、その家族のかな

はどうであったのかを聞くことによって、日本軍政下のその村の状況を記していくことが目的であった。マレーシアにおいても、日本軍政下の市民の体験について記録することの必要性が近年になって言われるようになり、古文書館や大学の図書館などで「オーラル・ヒストリー」として記録を進めるプロジェクトが出てくるようになった。今回は、筆者が以前から調査を行っているエステート周辺の村の人々への聞き取り調査ということで、村にとって「村の歴史」の側面からも、「日本軍政期の体験」の側面からも、貴重な記録となっている。

なお、インタビューにおける使用言語は、マレー系およびオラン・アシリのインタビュー対象者には、マレー語を用いた。華人の場合、本人に確認の上で、マレー語を使用した場合もあるが、海南語の場合などは華人スタッフに通訳をしてもらっている。また、実際のインタビューでは、インタビュー対象者も筆者も気さくな言葉遣いをしている場合もあるが、日本語に訳す際には、読んで自然なように「です」、「ます」に統一した。

#### 〈トゥロック・スングアの村民の体験について〉

4回にわたっての記録で共通に見えてくることは、日本軍政下における村民の生活の苦勞と食料不足の深刻さである。インタビュー対象者はみな一様に、戦時下の食料の不足によって苦勞したこと、タピオカやサツマイモを植えて、なんとか飢えをしのいだことについて語っており、また食料不足で死んだ人や栄養失調で病気になって死んでいった人を周囲に見ている。また日本軍については、近隣の村で残虐行為を行っていることは、中国系住民でなくとも聞いている。

興味深いのは、軍政体験にあらわれるエスニシティ（民族）の差である。中国人は、抗日運動の担い手になりうるとして日本軍ににらまれ、「肅正」（虐殺）の対象となっている。そうした日本軍による残虐行為の直接的な体験がなくとも、「日本軍が来たら、逃げないと殺される」と

### 【全体解説】

〈本インタビューについて〉

マレーシアでは、1942年から45年にかけて、日本軍政を経験している。マレーシア人にとっての日本軍政は、食料不足にさいなまれた時期として記憶されており、軍票による被害についてもしばしば言及されている。またとくに華人（中国系住民）にとっては、日本軍によるマレーシア各地の華人虐殺が歴史として伝えられている。

今回は、筆者が以前から調査を行なっているエステート（プランテーション）の周辺の村をケースに取り上げ、日本軍政期においてそのエステート周辺の村民がどのような経験をし、当時をどのように記憶しているかについて、日本の敗戦から50年を経た1995年および96年に現地でインタビューを行なった。

インタビューを行なった場所は、マレーシアのジョホール州コタ・ティンギ（Kota Tinggi）にあるトゥロック・スンガッ・エステート（Telok Sengat Estate）<sup>2)</sup>とその周辺の村においてである。インタビュー対象者は、日本軍政を記憶しているトゥロック・スンガッ周辺の村民、計22名（マレー系15名、華人5名、オラン・アスリ2名）であり、今回のインタビュー記録「日本軍政下のマラヤのエステートの村民」では、4回にわたって18人分を掲載した。

ジョホール州は、マレー半島において華人虐殺の犠牲者がもっとも多い州であり、その各地について悲惨な話が多い。今回、筆者がインタビューを行ったのは、ジョホール州の中でも華人虐殺の犠牲者がもっとも多いコタ・ティンギ内のケースであり、とくに(4)の今回は、同エステート周辺の村で日本軍が行った華人虐殺についての証言を中心に構成している。しかしながら、今回は華人虐殺だけがインタビューのテーマではなく、日本軍政期に村民がどういった体験をし、その前後の生活

ら。スパイは3人、いました。マレー人が2人に、中国人が1人です。彼らには日本軍が食料や物資を与えたり、金を渡したり、便宜を図ってやっていました。

問 : 村の人はみな、その人たちがスパイだということを知っていたのですか？

ハルン : 知っていました。

問 : どんなことを日本軍に知らせていたのですか？

ハルン : 何でもでしょう。誰がどうしたとか、こうしたとか。大した情報とは思えませんが。

問 : 日本軍については、村の人はどう言っていましたか？

ハルン : 日本軍は「パパイヤ、クラパ、アヤム、プルンプアン」を取っていく、と言われていました。すなわち、果物のパパイヤ、ヤシ（クラパ）、鶏（アヤム）、そして女性（プルンプアン）です。

問 : 女性も被害に遭ったのですか？

ハルン : ひどいものでした。しかも若い女性だけとは限りませんから。女性は日本軍に目をつけられないように、顔に泥を塗ったものです。また中国人が、身体を被うバジュ・クロン（マレー風の服）やベールをかぶるために、マレー人としてムスリム（イスラム教徒）になったりもしました。

問 : そんなこともしたのですか？

ハルン : 身を守るためです。

問 : 日本軍に、泰緬鉄道のリームシャとして強制連行された人はいましたか？

ハルン : ここにはおりません。

問 : ありがとうございました。

—インタビュー 17 終わり—

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

たというのです。そのライフルについてはライセンスも持っていたのですが、日本軍がそのライフルを見つけたときに、ライセンスを見せたのですが、日本兵は英語が読めず、彼のことを коммуニストと疑って、村の人を皆殺しにしたのです。

問 : 惨い話ですね。

ハルン : そうですね。

問 : トゥロック・スンガッの村でも、日本軍が来て、中国人を殺したようですが？

ハルン : 日本軍が朝早くにやってきて、村の 300 人を呼び出したこともありました。朝の 4 時に呼び集めて、店の前に 2 列に並ばせて、その日の昼までずっとみなを並ばせたのです。40 人から 100 人の日本兵がやってきて、そうさせたのです。

問 : 何のためにですか？

ハルン : エステートの財産(生産物や金)を盗もうとした人間を捕まえようとしたのです。マネージャーのヨシハラの子か孫が、写真をもとにして、犯人を示して、中国人を 1 人とマレー人を 1 人、捕まえました。

問 : いつのことですか？

ハルン : 戦争の早い時期です。1942 年のことです。

問 : 犯人を捕まえるためだけに、みなを並ばせたのですか？

ハルン : そうです。老若男女、子どもも並ばせました。村の人は、日本軍が коммуニストでも探しに来たのかと思っていたようです。その 2 人が捕まってはじめて、そのことがわかったようです。

〈日本軍の評判とスパイ〉

ハルン : 当時、日本軍は村にスパイを放っていました。

問 : なんでわかるのですか？

ハルン : 村の人にはわかります。あれこれと、かぎまわっていましたか

〈本人と家族について〉

問 : 日本軍政期には、あなたはおいくつでしたか？

ハルン : 10歳ぐらいでした。

問 : お父さんの仕事は？

ハルン : 父はコントラクター（請け負い業者）で、シンガポールに舟で  
ゴムを運んでいました。

問 : お母さんは？

ハルン : 主婦でした。

問 : エステートのことはよく知っていたのですか？

ハルン : 父や村長がエステートのマネージャーのヨシハラと親しかった  
ので、よく知っていました。

〈日本軍について〉

問 : この近辺で、華人虐殺などの事件が日本軍によって起こされて  
いるようですが、それについてうかがえますか？

ハルン : ルンプラン（ランピン）村では、村民すべてが殺されていま  
す。187人と聞いています。

皆殺しです。生存者は、マ  
レー人が1人に、中国人が1  
人です。日本軍がやってき  
て、みなを捕まえて、火をつ  
けて焼き払ったのですが、そ  
の2人だけは逃げたのです。

問 : どうして日本軍は、その村の  
人を皆殺しにしたのですか？

ハルン : 私の聞いたところでは、村の  
自衛のために、中国人がイギ  
リス製のライフルを持ってい



Harun bin Alwee

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

Hj.Md : 20人以上いたと思います。ピストルの SC303 を使っていました。

問 : どんな状況だったのですか？

Hj.Md : 屋外に会場を設置して、村の人たちが集まって、映画を観ていたのですが、映写機のために足場を組んでいて、その足場の上でライス氏自身が自分で映写機を扱っていました。エステートの会計係といっしょに足場の上にはいたのです。共産主義者たちは、会場に入って来て、ライス氏を下から撃ったのです。そして、ライス氏を殺してから、会場の方にも銃で撃ちましたので、みな、その場に伏せました。映画はそのままフィルムが回っていて、共産主義者が逃げた後、会場の村人みんなも逃げたのです。

問 : 共産主義者はほかにどんなことをしましたか？

Hj.Md : 彼らは、ゴムのエステートの家を 3 軒、火をつけて焼きました。娘たちは逃げました。

問 : ありがとうございます。

—インタビュー 16 終わり—

《インタビュー 17》

ハルン・ビン・アルウィー (Harun bin Alwee) 氏。63 歳。当時について、村の人からさまざまに話を聞いている。子どものうち 2 人が、トゥロック・スンガッ・エステートで現在、働いている (1996 年 8 月 10 日、トゥロック・スンガッ村の本人の自宅でインタビューした)。

のですか？

Hj.Md : いいえ。そんなことは聞いたこともありません。コミュニストの人たちは物を取っていくだけで、食料を配給したなんて、ここでは聞いたことがありませんし、物を持ってきたりはしていません。

問 : 戦後、日本人は戻って来ましたか？

Hj.Md : 降伏前に、帰ってきた日本人マネージャーがいました。GM とほかに2人の日本人で、3人でエステートに戻ってきたのです。

問 : 何のために戻ってきたのでしょうか？

Hj.Md : エステートの様子を見に来たのでしょうか、何か財産を取りに来たのかも知れません。

問 : それはいつのことでしょうか？

Hj.Md : 1945年ですが、日本の降伏の前です。

問 : 戦後、エステートはどうなったのですか？

Hj.Md : 日本の降伏前に資産の差し押さえで閉鎖されていますが、1945年にはまだ閉鎖されたままです。1946年にはBMA、イギリスの軍政下に入ります。1947年には、アサヒ・エステートのマネージャーだったライス氏がコミュニストに殺されています。

問 : コミュニストはなぜライス氏を殺したのでしょうか？

Hj.Md : エステートも何もかも、その支配下に置こうとしたのです。

問 : ライス氏が殺害された現場にあなたもいましたか？

Hj.Md : いました。ハリ・ラヤのときに、エステートによる映画の上映会があって——海賊の映画でしたが——その戦闘シーンの音に紛れて、(コミュニストが) ライス氏を銃で撃ったのです。そのときのコミュニストの襲撃で、2人が殺されました。

問 : 襲撃してきたコミュニストは、何人ぐらいでしたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

問 : どれぐらい、頻繁に見ましたか？

Hj.Md : 3週間で2度、見たこともあります。それも1人や2人の死体が流れてくるのではないのです。数え切れないほどです。

問 : 殺されたのは、この人ですか？

Hj.Md : いいえ。ここでは殺していません。ランピンです。そこで中国人を連れて行って、殺したのです。

問 : そういった死体が数多く川を流れていく様子を見て、どう感じましたか？

Hj.Md : 怖かったです。ほんとうに、怖かったです。

〈軍票について〉

問 : 戦時中、お金はどうなりましたか？

Hj.Md : イギリスのお金は使いきったので、日本の金(軍票)を使いました。物を買うのも、売るのも日本のお金です。日本の金は、イギリスのお金に換えられると聞いていたのですが、換えられませんでした。

〈終戦について〉

問 : 戦争の終わりについて、どうやって知りましたか？

Hj.Md : 人が話しているのを聞きました。父やコタ・ティンギの偉い人が話しているのを聞いたのです。当時はTVも電話もない時代ですから。

問 : どう感じましたか？

Hj.Md : 日本が降伏して、外に出てもいいのだと思いました。生活がたいへんでしたから、生活が楽になるかと思って、うれしかったです。エステートはすぐには再開されませんでした。

問 : 戦後すぐに、 коммуニストが物資を運んできて、食料を配給した、という話を聞きましたが、ここでもそういうことはあった

Hj.Md : 誰というのは、わかりません。必要なものを手に入れるだけです。

〈日本軍について〉

問 : 日本軍はどうでしたか？

Hj.Md : 中国人はコミュニストとの関連で、あれこれあったようですが、マレー人とはだいじょうぶでした。

問 : 中国人はどうだったのですか？

Hj.Md : 日本軍を怖がって、日本軍が来たら逃げて、日本軍が帰ったら戻ってくる、といった具合でした。

問 : マレー人はだいじょうぶだったのですか？

Hj.Md : 日本軍の将校が、証明の手紙を書いてくれました。

問 : その手紙はどんなものですか？

Hj.Md : Authority の手紙です。その手紙があったのですが、もうなくしました。

問 : 日本軍に参加した人はいましたか？

Hj.Md : コタ・ティンギにはいたでしょうが、ここにはいません。ここにいたのは漁師ですから。

〈華人虐殺について〉

問 : 日本軍が中国人を虐殺したことは聞いていましたか？

Hj.Md : コタ・ティンギで中国人を殺したことは知っています。

問 : どう知ったのですか？

Hj.Md : コタ・ティンギ川で、上流から死体が流れてくるのです。下流に、縛られた遺体が流れてくることもあれば、頭や足だけ、流れてくるのもありました。

問 : あなた自身が、見たのですか？

Hj.Md : そうです。

#### 日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

ました。

問 : 当時は、灯かりはどうしていたのですか？

Hj.Md : 電気はまだなかったですから、ガス灯です。

問 : 水はどうでしたか？

Hj.Md : 井戸から汲んでいました。水道になったのは、1980年代になってからです。

問 : 戦争が始まってから、エステートの方はどうでしたか？

Hj.Md : エステートの日本人は戦争が始まるまではいましたが、戦争が始まるのを知っていたのか、すぐに日本人は帰国していききました。

問 : 日本人のマネージャーは何人ぐらいいたのですか？

Hj.Md : トゥロック・スンガットのGM (ジェネラル・マネージャー) が1人, アシスタント・マネージャーが2人, アサヒ・エステートのマネージャーが1人, ナンヨー・エステートのマネージャーが1人, グントン・エステートにはいませんでした。

問 : 彼らは、家族も連れてきていましたか？

Hj.Md : はい。それに日本人医師もいました。

#### 〈戦時中の生活〉

問 : 戦時中はどういう生活をしていたのですか？

Hj.Md : 生活はたいへんでした。食べ物も物資もなかったです。漁をして、バンチョーで魚と米とを交換していました。物々交換です。

問 : 漁には出ていったのですか？

Hj.Md : 漁には出ることができました。夕方の5時には戻りました。シンガポールには行けませんでした。トゥロック・スンガットではできました。

問 : 誰と物々交換をしたのですか？

トの労働者，インド人は数十人といったところでしょうか，エステートの労働者です。

問　　：エステートはどうでしたか？

Hj.Md：トゥロック・スングッ・エステートが最大のエステートで，当時は南亜とっていました。それからナンヨー，アサヒ，グントンなどのエステートがありました。

問　　：労働者はどうしていたのですか？

Hj.Md：おもにここに住んでいましたが，シンガポールから，マンドー（現場監督，クーリーの頭）がクーリーを連れてくることもありました。

問　　：エステートの労働者は，どうやって生活をしていたのでしょうか？

Hj.Md：エステートのクーリーは，トゥロック・スングッ村に物を買って来ていました。自転車を使って，村に来ていました。

問　　：当時，お父さんは何の仕事をしていたのですか？

Hj.Md：1926年にマンドーを始めていました。

問　　：エステートの方は，どうでしたか？

Hj.Md：日本人がやっていました。村には日本人の病院もありました。日本人の医師もいました。建物は残っていませんが，現在の村の宗教学校の後ろにありました。

#### 〈戦争の始まり〉

問　　：戦争が始まったのは，どう知りましたか？

Hj.Md：ラジオで知りました。人も叫んでいました。シンガポールにたくさん飛行機がやってきて，爆撃や炎が見えました。

問　　：戦争が始まって，生活はどう変わりましたか？

Hj.Md：よく避難しました。夜は，灯かりが漏れないように，ランプの灯をおおったり，窓を閉めて，灯かりが外に漏れないようにし

問 : 現在, おいくつですか?

Hj.Md : 66 歳です。

問 : 何年生まれですか?

Hj.Md : 1927 年です。

問 : どのお生まれですか?

Hj.Md : トゥロック・スンガッ村です。

問 : 日本軍政期には, 何歳でしたか?

Hj.Md : 15 歳です。

問 : 当時は, 誰と住んでいましたか?

Hj.Md : 両親といっしょでした。

問 : ご両親は何をしていらっしゃいましたか?

Hj.Md : 父は村長で, 母は主婦でした。

問 : ご兄弟, 姉妹は?

Hj.Md : 姉妹が 7 人, 兄弟が 2 人で, 9 人いました。何人かは亡くなりました。

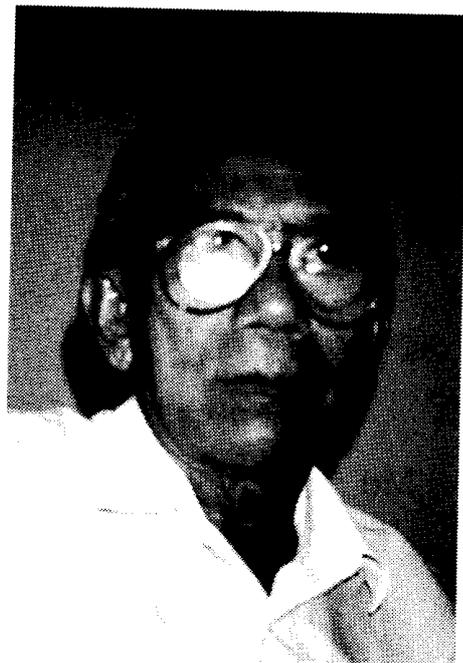
問 : 何の仕事をしていらっしゃいますか?

Hj.Md : 近くのフェルダにもおられますし, 結婚して主婦になっているものもおります。

〈当時のトゥロック・スンガッ村〉

問 : 当時の村はどんな状況でしたか?

Hj.Md : トゥロック・スンガッ村の人口は 300 人ほどで, 漁師やエステートの労働者などをしていました。中国人は 100 人強ほどで, 漁師にエス



Hj. Md Noor bin  
Hj. Md Shah

パン：父親のコーヒーショップを継いで、やっていきました。

問：原爆については聞きましたか？長崎とか、広島とか？

パン：原爆については、後になってから聞きました。

〈日本政府や日本国民に対して〉

問：日本軍や日本政府に対して、言いたいことはありますか？

パン：上の世代、第2次大戦を経験した世代や日本政府は戦争についてわかっているはずですし、もう年も取って死んでいくのですが、今は若い世代に2度と戦争を起こさないようにしてほしいです。2度と戦争が起こらないように。私たちは非常につらい経験をして、苦しめられました。人殺しはいけません。兵隊と兵隊が戦うのはとにかくも、罪もない人間を殺すのはいけません。

問：ありがとうございました。

—インタビュー 15 終わり—

《インタビュー 16》

ハジ・モハメッド・ノア・ビン・ハジ・モハメッド・シャー (Hj. Md Noor bin Hj. Md Shah) 氏。66歳。1927年にトゥロック・スンガッ村に、村長の息子として生まれる。現在、トゥロック・スンガッ村の村長。同村のUMNOのリーダーでもある(1995年8月10日、トゥロック・スンガッ村の村役場にてインタビューした)。

〈本人と家族について〉

問：お名前は？

Hj.Md：モハメッド・ノア・ビン・モハメッド・シャー (Hj. Md Noor bin Hj. Md Shah) です。

かったです。

問 : それで、どうしましたか？

パン : スンガイ・パパンのお婆の家に行きました。母の姉妹の家です。

日本軍が恐くて、身を隠そうとしたのです。

問 : スンガイ・パパンはだいじょうぶだったのですか？

パン : スンガイ・パパンには日本軍は来なかったのです。

問 : どうしてですか？

パン : わかりません。おそらく村長がうまく話をつけていたのでしょう。

問 : 日本軍は коммуニストを探して中国人をねらったのですが、村の人の中に коммуニストはいたのですか？

パン : わかりません。

問 : 食料はどうしましたか？

パン : タピオカなどのいもを自分たちで植えて、なんとかやっていきました。

#### 〈終戦について〉

問 : 戦争の終わりはどうやって知りましたか？

パン : 当時、噂が流れて、米軍が東京を空襲したということを知りました。

問 : それでは、いつ終戦を知りましたか？

パン : 日本の降伏の後です。

問 : どう感じましたか？

パン : 日本軍がいたときに生き残ったのは幸運だった、と思いました。みな、飢えていました。食べる米もなかったですし。

#### 〈戦後について〉

問 : 戦争の後には仕事はどうなりましたか？

パン：よそのことはよくわかりません。でもランピンで、82人の村民を子ども含めて皆殺しにしたというのは知っています。村一つがみな殺されたのです。強盗か何かで日本人マネージャーが殺されると、日本軍が怒って、その翌日には、その報復で村人全員80名以上を殺したのです。村すべてが殺されたのです。ランピンの村から、一人は逃げたのです。生き残ったのはその1人だけです。

問：生き延びた人はどんな人ですか？

パン：男で、30歳代の人です。

問：その人は、どこに逃げたのですか？

パン：手首を縛られたまま、逃げだして、海岸沿いに逃げて来たということでした。

問：ランピンはどんなでしたか？

パン：炎が見えました。ランピンの村が火をつけられて、燃えていました。

問：ランピンの虐殺について聞いたのはいつ、どのようにですか？

パン：日本軍がランピンで虐殺をした後、日本兵がやって来たのです。知らせがあって、日本軍の長がやってきて、午後3時には外に出てこなければならぬといわれたのです。スンガイ・パパン村に、午後3時にやってきて、みなを家から呼び集めて、宣言しました。銃を見せて、日本の銃は強い、日本軍は強く、ランピンはみな殺しだった、と。それで、ランピン的人是べて殺されたと知りました。日本軍政期は、日本軍はそうやって殺して歩いたのです。

問：日本軍がランピンで村民を皆殺しをしたと聞いたときにはどうでしたか？

パン：恐くて何もできませんでした。トゥロック・スンガッには戻れないと思いました。同じように殺されるかも知れないと思って、恐

パン：聞かれませんが、顔を見て、確認していったのです。

問：誰が確認したのですか？

パン：私にもわかりません。

問：顔を確認してから、お父さんをどうしたのですか？

パン：日本軍は父をエステートに引きずっていったのです。最初は、「あー、あー」という声が聞こえましたが、その後、声もしなくなりまして。殺されたのです。

問：それからどうしましたか？

パン：その後、遺体を取り戻しに行きました。父は後ろ手に縛られて、殺されておりました。遺体はゴムの樹の側にあって、枝で覆われておりました。身体には、23の傷痕がありました。ひとつひとつ数えたのです。遺体を清めて、埋葬しました。

問：誰が死体を運んだのですか？日本軍ですか？それとも知り合いの方ですか？

パン：私や友人です。

問：いつのことですか？

パン：翌日、私と友人で探しに行きました。次の日の午後に行ったのです。

問：お父さんが捕まったときには、ほかの人はどうだったのですか？

パン：父も含めて3人が捕まったのですが、ほかの2人はよそ（パンチャー）に連れていかれて殺されたのです。

問：なぜ彼らはつかまったのですか？

パン：わかりません。恐くて、理由も聞けませんでした。

〈ランピン村の虐殺について〉

問：日本軍が村の人を連れて行って殺したりというのは、しょっちゅうあったのですか？日本軍がほかのところでも同じことをしたのでしょうか？

〈父親が殺されたときについて〉

問 : お父さんが殺されたときのことを教えてください。

パン : 日本軍が来て、父を連れて行って殺したのです。1943年のことです。父は50歳過ぎでした。当時は法も何もない状況で、日本軍が気に入らなければ何をされても仕方もない状況でした。

問 : いつのことですか？

パン : 中国暦（旧暦）で、1月6日です。

問 : 日本軍はなぜお父さんを捕まえて殺したのですか？

パン : 抗日運動をしているといわれたのです。誰が日本軍にそういったのかはわかりません。

問 : お母さんはどこにいたのですか？

パン : 家にいました。

問 : 日本軍が来たときは、何人ぐらいの日本兵が来たのですか？

パン : 30人ぐらいです。

問 : 彼らは銃や武器を持っていましたか？

パン : 銃を持って、首を被う帽子をかぶっていました。

問 : どんな状況だったのですか？

パン : 朝の3時ぐらいに、日本軍がやってきて、家族をみな並ばせたのです。日本人の男がいて、最初は父の弟を指して、この男だと指したのですが、いや、この男ではないと、今度は父を指して、父が連れて行かれたのです。後ろ手に縛って、銃身で殴りました。

問 : 村の人はみな調べられたのですか？

パン : いいえ、家族だけです。

問 : 何家族ですか？

パン : 海岸の方に集められて、暗くてよくわかりませんでした。

問 : 名前は聞かれたのですか？

問 : お父さんの仕事はどうになりましたか?

パン : 戦争が始まったら、仕事もなくなりました。

問 : どうになりましたか?

パン : お金もなくて、ものを植えることもできず、生活はたいへんでした。

問 : 日本軍が来て、どうしましたか?

パン : 日本軍が恐くてジャングルに隠れていました。

問 : 生活はどうなったのですか?

パン : 恐くて、ジャングルに隠れていて、たいへんだったのです。みんな、そうでした。

問 : どれぐらいジャングルに隠れていましたか?

パン : 1年間か2年間です。

問 : 1年中ずっとですか?

パン : そうです。

問 : どのジャングルですか?

パン : エステートの周囲です。

問 : 寝るのはどうしたのですか?

パン : 小さな小屋を作って、そこで眠りました。

問 : 村の人はみな、そうしたのですか?

パン : 村の人の中にはよそに逃げていった人もいます。

問 : 村はどうなったのですか?

パン : 戦後は人口が減りました。

問 : 前はどれぐらいいたのですか?

パン : 数百人いました。家もたくさんありました。

問 : 家には何か残してあったのですか?

パン : 何も残しませんでした。

問 : 服はどうしたのですか?

パン : 服もジャングルに運びました。

パン：69歳です。

問：何年生まれですか？

パン：1926年です。

問：どこで生まれましたか？

パン：トゥロック・スンガッです。

問：エステート内ですか？それとも、村の方ですか？

パン：村です。

問：日本軍政期は、いくつでしたか？

パン：15歳でした。

問：学校には行きましたか？

パン：学校では勉強できませんでした。

問：どなたと住んでいましたか？

パン：両親といっしょです。

問：兄弟姉妹は？

パン：兄弟は5人でした。

問：もう結婚していましたか？

パン：まだです。

問：お父さんの仕事は何でしたか？

パン：舟の仕事です。渡し舟です。

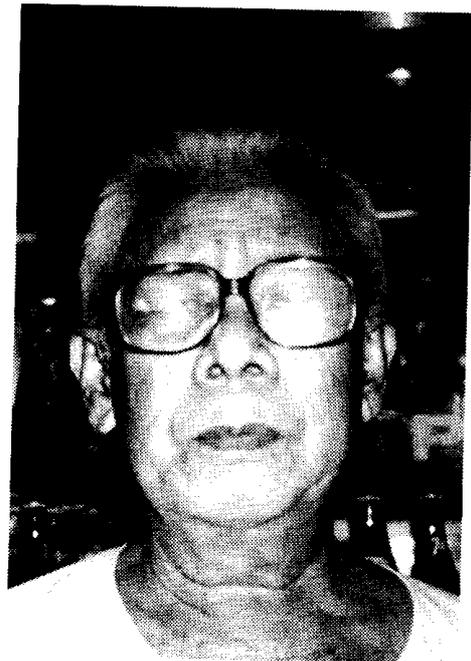
問：お母さんは？

パン：主婦でした。

〈日本軍政が始まって〉

問：日本軍政が始まったときは、どんなでしたか？

パン：シンガポールにいて、爆撃（1941年）があっ  
て知りました。恐  
かったです。



パン・ジン・ホー（馮仁侯）

オン：幸せに感じました。

問：仕事はどうになりましたか？

オン：自分で商売を始めました。コーヒーショップです。

問：エステートはどうになりましたか？

オン：当時は、政府が回収して、閉鎖されていました。ゴムの樹はそのままでしたが、タッピングはされないままでした。

〈日本政府に対して〉

問：今年に日本が降伏して50年がたった年ですが、日本政府に対して言いたいことはありますか？

オン：戦争中は本当に苦しかったし、つらかったです。収入はなくなりましたし、兄は殺され、幼い子どもも殺されて、本当に苦しめられました。謝罪もないわけですから。何とかしてほしいですね。

問：ありがとうございました。

—インタビュー 14 終わり—

### 《インタビュー 15》

パン・ジン・ホー(馮仁侯)氏。69歳。1926年にトゥロック・スングアット村に生まれる。日本軍政期に、父親が日本軍に殺される体験を持つ。現在、トゥロック・スングアット村のコーヒーショップを経営している。華人のスタッフによる通訳を介して、海南語でインタビューした(1995年8月5日、本人の経営するコーヒーショップでインタビューした)。

〈本人と家族について〉

問：おいくつですか？

問 : 日本軍に連れていかれたお兄さんについてうかがえますか？

オン : ここから 19 キロメートル離れているポンティアンにいたのですが、2 人いる兄のうち、1 人が日本軍に捕まったのです。

問 : お兄さんの仕事は何でしたか？

オン : コントラクターです。

問 : ポンティアンで働いていたのですか？

オン : あちらこちらです。仕事でポンティアンやここを行ったり来たりしていました。

問 : 日本軍に連れて行かれたのは、いつのことですか？

オン : 正確な日付はわかりません。1942 年のことです。

問 : どの月のことですか？

オン : それは覚えていません。

問 : 日本軍に連れて行かれたときのことを話してください。

オン : 兄はコントラクターとして働いていて、いろいろなところに行っていたのですが、ポンティアンに仕事で行ったときに、日本軍に捕まったのです。

問 : なぜですか？

オン : 理由はわかりません。

問 : どうやってそのことについてわかったのですか？

オン : 2 人の兄のうち、1 人は逃げましたので、その兄から話を聞きました。

〈戦争の終わりについて〉

問 : 戦争が終わったのはどう知りましたか？

オン : 村中が大騒ぎでしたので、わかりました。

問 : どこで聞いたのですか？

オン : ここです。自分の家です。

問 : どう感じましたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

オン：タイプンという医者がいました。

問：漢字でどう書きますか？

オン：わかりません。

〈戦争が始まって〉

問：戦争が始まって、どうしましたか？

オン：日本軍が来たときには、日本軍に殺されると思って、恐くなって  
ジャングルに逃げました。

問：いつのことですか？

オン：正確な年や月はわかりません。

問：どれぐらいジャングルの中にいましたか？

オン：ずっとジャングルの中にいたというよりは、日本軍が来ると、数  
日ジャングルの中に逃げ込んで、村に戻り、また逃げるといった  
生活でした。食料を手に入れなければなりませんし。

問：食料はどうだったのですか？

オン：米に、塩を使っていました。タピオカを植えたりしました。

問：当時、生活はどうしていたのですか？ エステートはどうでした  
か？

オン：エステートの方は仕事がなく、生産がない状況でした。

問：エステートで仕事がないなら、ほかの労働者や日本人スタッフは  
どうしていたのですか？

オン：ほかの人もみな、逃げていました。日本人もです。

問：お金はどうしたのですか？

オン：戦前に貯めた金を使いました。貯金がなくなったら、食料も自分  
たちで植えたりしてどうにかしました。タピオカやほかのものを  
植えて、暮らしていました。

〈日本軍に殺された兄について〉

ルぐらいでした。

問：当時、エステートにはどれぐらいの人が働いていましたか？

オン：30人以上です。ほかのエステートも合わせると、数百人です。

問：当時、働いている人の中では、マレー人、中国人、インド人の比率はどうでしたか？

オン：だいたい、インド人が6割、中国人が2割、マレー人が2割とあったところです。

問：エステートの面積はどれぐらいですか？

オン：いろいろと合わせて、全部で2.2万エーカーです。

問：そのエステートは、どのエステートですか？

オン：この地域のアサヒ（旭）、ナンヨー（南洋）、グントン（群島）、ナンア（南亜）——これはトゥロック・スンガッです——、タンピンなどです。

問：タンピン・エステートというのは、初めて聞きましたが？

オン：それも日本人の所有でしょう。当時のマネージャーで、殺された日本人がいます。

問：どういう名前ですか？

オン：漢字では「吉成」と書きます。

問：ヨシナリさんでしょうか。

オン：わかりません。彼は、ゲリラか強盗に殺されたのです。

問：当時、日本人のスタッフは何人ぐらいいましたか？

オン：南亜（エステート）にいたのは、5、6人ぐらいです。

問：戦争が始まったときのエステートの日本人マネージャーは誰ですか？

オン：キッチュアンです。

問：漢字ではどう書きますか？

オン：「菊井」と書きます。

問：ほかには？

オン：トゥロック・スンガッです。

問：いくつで仕事を始めたのですか？

オン：15歳のときです。

問：ゴムのタッパーとして仕事を始めたのですね？

オン：そうです。

問：それ以前にも働いていましたか？

オン：中国からシンガポールに来て、それからここに来たのです。仕事はこれが始めてです。

問：どうしてエステートで働き始めたのですか？

オン：兄が働いていたのです。

問：お兄さんはコタ・ティンギになぜ来たのですか？

オン：おじさんがこのマンドーをされていて、兄が働き始めて、私もここで働くようになったのです。

問：どうやってトゥロック・スンガッでの仕事を得たのですか？

オン：おじさんがコントラクター（請け負い業者）でしたので、彼の紹介で、仕事を得ました。

問：エステートで働き始める前に、もう知り合いはいましたか？

オン：大勢知っていました。親戚もいましたし。

〈当時のエステートについて〉

問：ゴム・タッパーとして働いていたときには、どれぐらい働いていましたか？

オン：朝の5時から午後1時か2時ぐらいまで働きました。

問：収入はどうでしたか？

オン：月に10（海峡）ドルちょっとでした。その後、少しずつ増えました。

問：だいたい平均してどれぐらいでしたか？

オン：日本軍が来たころは、もう少し増えて、月収は17ドルか18ド

ですが、当時はおいくつでしたか？

オン：30代でした。

問：どこに住んでいましたか？

オン：ここです。トゥロック・スングッです。

問：もう結婚していましたか？

オン：結婚していました。

問：家族は？もう子どもがいましたか？

オン：いました。でも、1人は3歳で亡くなりました。食料がなくて死んだのです。

問：そのころ、ご両親はどこにいたのですか？

オン：マラッカにいました。母は海南にいました。

問：お父さんの仕事は何でしたか？

オン：仕立て屋をやっていました。

問：お母さんの仕事は何でしたか？

オン：（海南で）農民です。

問：ご兄弟姉妹は、何人ですか？

オン：3人の兄弟がいます。

問：彼らのご職業は？

オン：コントラクターでポンティアンに働きに行っていました。

問：学校には何年間行きましたか？

オン：6年間です。

問：ご両親は？

オン：わかりません。

〈当時の仕事について〉

問：当時は、何の仕事をしていましたか？

オン：ゴムのタッパーです。

問：どこのエステートででしたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

チョン：4回目は、1943年の末です。3回目に日本軍が来たときから2週間後に日本軍が戻ってきたのです。

問：ありがとうございました。

—インタビュー 13 終わり—

《インタビュー 14》

オン・チャッ・ファイ（翁祚槐）氏。83歳。1913年に中国の海南に生まれる。15歳のときから、トゥロック・スンガッ・エステートでゴムのタッパーとして働く。日本軍政期に、コントラクターとして働いていた兄の一人が日本軍に連れて行かれ、殺されている。華人のスタッフによる通訳を介して、海南語でインタビューした（1995年8月5日トゥロック・スンガッ村のコーヒーショップにてインタビューした）。

〈本人について〉

問：お名前は？

オン：オン・チャッ・ファイ（翁祚槐）です

問：何歳ですか？

オン：83歳です。

問：何年生まれですか？

オン：1913年です。

問：どこのお生まれですか？

オン：中国の海南です。

〈当時の家族について〉

問：日本軍政期について聞きたいの



オン・チャッ・ファイ(翁祚槐)

問 : あなたのお父さんとお友達は、何回目に殺されたのですか？

チョン : 日本軍が3回目に来たときです。

問 : あなたは、お父さんの死体をどこで捜したのですか？

チョン : 私は、タピオカやさつまいもをスンガイ・スンビランに植えに行きましたので、2、3日後に私はティモンに戻りました。

問 : あなたのお父さんが捕まった後、どうしてスンガイ・スンビランに行ったのですか？

チョン : 私と母と妹と従姉と森に逃げてから、家は焼かれて、私は父をあちらこちらで捜して、スンガイ・スンビランでも父を捜したのです。私たちは父親を捜していましたが、そのとき、ほかの人は母親や妻を捜していました。みな、自分たちで、父親は、母親は、と（自分の家族の遺体を）捜していったのです。私たちはそんなふう捜していったのです。ティモンに戻ったときには、食べ物は少しもなく、タピオカだけでした。当時は、何もできないために、多くの人が病に倒れました。

問 : あなたのお父さんとスンガイ・スンビランの400人が殺されたのは、日本軍が3回目に来たときですが、それは同じ日ですか？ それともいつですか？

チョン : それは同じ日です。

問 : その後、日本軍は戻ってきましたか？

チョン : 日本軍が行きましたが、その後、逃げた人を捕まえに戻って来たのです。私やほかの人は幸運でした。もう森に身を隠していましたから。

問 : 日本軍が戻ってきたのは、何回目に来た時のことですか？

最初に来たときが1942年で、2回目が1943年の初め、3回目が1943年の終わりということですね。日本軍が戻ってきたとすると、3回目からどれぐらいいたっていたのでしょうか？ 2カ月後ですか？ 3カ月後ですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

テートの人間だけです。読み書きもできない連中です。

問 : このことについては、誰が知らせてきたのですか？

チョン : その場所の近くに住んでいる人からです。

問 : 当時、スンガイ・スンビランで殺された中国人の中に、コミュニストの人はいたのでしょうか？

チョン : いません。

問 : 彼らは、コミュニストを支援していたのですか？ それともそうではなかったのですか？

チョン : わかりません。

〈日本軍の来訪と虐殺〉

問 : 4回目に日本軍が来たときに、日本軍に殺されたのは誰ですか？

チョン : 学校の校長と20人余りの人です。

問 : 彼らはどうして殺されたのですか？

チョン : 私には、なぜ日本軍が人殺しをしたのかはわかりません。殺したいと思ったら、悪い人を殺すのでしょ。

問 : 校長といっしょに殺されたのは、何の仕事をしている人で、男性ですか？ 女性ですか？

チョン : 日本軍が見つけたのは男性だけで、その人たちを殺したのです。

問 : 女性もいましたか？

チョン : いました。でも、多かったのは男性です。多くの場合、女性や小さい子どもは日本軍が来るときにはもう逃げていますから、それ以上逃げようもないのです。みなが逃げてしまったら、家の中にあるものがほかの人間に盗まれます。家があるなら、物はみな家の中にありますが、盗まれてはおしまいですから、私は持って逃げました。

チョン：銃で殺されたのです。

問：叔父さんはなぜ殺されたのですか？

チョン：叔父は、中国人結社に物資の調達をしていましたので、日本軍は悪いやつ仲間だと疑ったのです。日本軍は、なにか懸念があると、その人を殺すのです。

問：中国人結社のメンバーと疑われて、なぜ叔父さんたちがみな、殺されなければならないのですか？

チョン：日本軍は、メンバーはみないっしょだと、全員を疑っていたからです。

問：3回目に日本軍が来たときには、殺されたのは何人ですか？

チョン：3回目は400人です。ティモンではなくて、ほかの村です。

問：スンガイ・スンビランですか？

チョン：そこの近くです。

問：彼らはなぜ殺されたのですか？

チョン：日本軍は、彼らが秘密結社に関係していると疑ったのです。彼らはナンヨー・エステートのエステート労働者でしたから、日本軍が来る前は、日本人の所有のエステートですよ。日本軍は、私たちがその秘密結社に物資を調達していたのを知っていましたし、私たちは食べ物を自分たちでもっていました。十分ではないですから、あげることはできません。食べ物もなくて、毎日、タピオカを食べていました。

問：彼らは自分たちで食料を植えていたのですか？ それともエステートがあったのですか？

チョン：日本人の持っていたエステートです。ナンヨー・エステートです。

問：労働者はどこに住んでいたのですか？

チョン：エステートの中に住んで、ゴムのタッピングをするか、自分たちで食べるために野菜を植えていました。彼らはみな、エス

か？

チョン：知りません。

問：あなた自身は、妹といとこ、お母さんと森に逃げて隠れて、その後、どこへ行きましたか？

チョン：身を隠していました。

問：その森は、ティモンの地域内ですね？

チョン：そうです。

〈日本軍による村民殺害〉

問：いつ、叔父さんとその家族は殺されたのですか？

チョン：1943年です。その年の始めです。そして、私の父がその死体をみな埋葬しました。私の父が殺されたのが、その1943年の終わりごろです。

問：叔父さんの家族といっしょに殺された人は誰かいましたか？

チョン：わかりません。

問：日本軍は、4回、ティモンに来たのですね。そして2回目に、あなたの叔父さんの家族を殺したのですが、ほかにいっしょに殺された人はいるのでしょうか？

チョン：知りません。でも、学校長でひとり、頭を切り落とされた人がいました。頭といっしょに吊るされました。

問：日本軍が来たときからいうと、2回目のことでしょうか？それとも3回目のことでしょうか？

チョン：日本軍が来た4回目です。

問：叔父さんは、2回目に日本軍が来たときに殺されたのですね？

チョン：そうです。1回目のときは、日本軍は人を殺しませんでした。人を脅しただけでした。でも2回目、3回目、4回目は日本軍は人を殺しました。

問：日本軍に殺された人は、どう殺されたのですか？

人。ほかで400人が殺されています。日本軍が来て、食べ物  
がなくなり、大勢の人が森を切り開いて、タピオカを植えてい  
ます。あそこでは、食べ物が不足していたために、大勢の人が  
死んでいます。

問 : どの場所ですか？ ティモンの地域内ですか？

チョン : そうです。同じところですよ。

問 : (殺された) 親戚というのは、誰ですか？ 直接の親戚ですか、  
それとも？

チョン : 私の父の弟とその家族です。

問 : どのように、日本軍に殺されたのですか？

チョン : 私が村に着いたときには、叔父とその家族はもう銃で撃たれて  
死んでいました。

問 : 日本軍は、剣を使うのではないのですか？

チョン : 使っていないですね。

問 : 叔父さんたちの死体は、どこにありましたか？ 家の中です  
か？ それとも屋外ですか？

チョン : 外です。

問 : あなたのお父さんは、どう殺されたのですか？

チョン : 私の父がリュウの家族の家に行ったのを見たと言う人がいて、  
その後で日本軍にみな、いっしょに捕まったのです。

問 : そのリュウの家族というのは、何人ですか？

チョン : 10人足らずです。

問 : 誰が見たのですか？

チョン : 私の友人が、みな捕まって、縛られるのを見たのです。

問 : そうであったら、あなた自身はお父さんがどう日本軍に殺され  
たかは知らないのですか？

チョン : 見てはいません。私は逃げていましたので。

問 : 日本軍は、捕まえた人たちをどこに連れていったのでしょうか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

軍が来たら、捕まえられて、集められて、殺される、と。逃げるなら逃げますよ。逃げないのなら、日本軍が捕まえるのですから。

問 : その朝は、日本軍は中国人を呼び集めたのですか？

チョン : そうです。私は逃げたので、日本軍は私は捕まえられませんでした。

問 : 日本軍が来たときのことは覚えていますか？

チョン : 日本軍は、朝の8時15分頃に来たのですが、そのときのことは忘れられません。

問 : その朝、日本軍はどのようにティモンにやってきたのですか？

チョン : 半数は自転車に乗ってきて、残りは徒歩でした。

問 : その朝、あなた自身は、日本軍が来るという通告をコミュニストから得ていたために逃げたわけですが、何を見ましたか？

チョン : 日本軍がやってきて、人を殺すのを見ました。私は、13日間、森の中に隠れていました。それから、後で私は必要なものを取りに家に戻りました。私が森に戻っていくときには、この辺りはもう焼き払われていました。私は幸運だったのです。チョンという私の友人は、日本軍に捕まって、日本軍に、ほかの人がどこに隠れているのか、示すように脅迫されたのですが、賢かった。川向こうの場所に行くときに、逃げたのです。日本軍は彼を銃で撃ちましたが、彼は幸運にも死にませんでした。

問 : あなた自身は、誰といっしょに家から逃げたのですか？

チョン : 母と妹といとことです。

問 : ほかの家族の人はどうしたのですか？

チョン : ほかの家族は、ほかの道から逃げて、父は亡くなりました。

問 : ティモンでは、日本軍に何人殺されたのですか？

チョン : 私の親戚で1家6人が日本軍にみな殺されました。学校の友達では3人が殺されています。全部で20人です。この村で20

は、そのスタッフは、彼を治療するように頼んだのですね？

チョン：そうです、彼を殺すのではなく、治療するためにです。

〈ティモンでの日本軍による華人虐殺〉

問：当時は、ここは中国人村だったのですか？

チョン：そうです、ここで人が殺されました。

問：ここで亡くなったのは何人ですか？

チョン：300人ぐらいです。スンガイ・スンビランから1キロぐらいの森の中です。

問：日本軍がティモンに2度目に来たのは、朝ですか？それとも昼ですか？

チョン：朝のまだ7時ぐらいでした。コミュニストの人が、日本軍が来ることを知らせてくれました。

問：そのコミュニストの人は逃げるように、知らせて助けてくれようとしたのですか？

チョン：そうです。

問：そのコミュニストの人は、近所の人ですか？それとも知らない人でしたか？

チョン：外の人です。この人間ではありません。クタ・ティンギから、歩いてここまで来るのに4時間かかります。

問：コミュニストの人からどう知らされるのですか？

チョン：日本軍が来るときには、その情報を友達から友達に伝えて、それからその友達からほかの友達に、と知らせていくのです。

問：彼らはどうやってその情報を入手するのですか？

チョン：それは私にはわかりません。

問：彼らはどう話していましたか？

チョン：日本軍が来るだろうと話していました。逃げなければ、死んでしまう。もしくは誰かはわからないが、逃げなかったら、日本

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

ら。スタッフの一人が彼を知っていて、彼を殺すように日本軍に命令していました。

問 : そのスタッフというのは、日本人ですか？

チョン : そうです。そのコック・ロックというのは、舟を運ぶ仕事をしていました。

問 : その日本人スタッフは、コック・ロックを知っていたのですか？

チョン : そうです。コック・ロックは、日本軍が来たときに、日本軍に最初に撃たれた人間ですが、そのスタッフはエステートで働いていた人間です。

問 : そのスタッフは、エステートで以前働いていた日本人だったのですか？

チョン : そうです。

問 : 日本軍が来た当初に、コック・ロックという男性を撃ったが、彼は死ななかった。その後、彼を知っているスタッフが、日本軍を連れてきて、彼をまた殺すようにさせたのですね？

チョン : その日本人スタッフは、以前はエステートのスタッフで、彼を知っていて、そして日本軍の軍医に注射をするように頼んだのです。

問 : でも、どうしてですか？

チョン : 計画があって、なにか悪いことがあったからです。

問 : なぜ、彼を殺そうとしたのですか？

チョン : 当時、コック・ロックは、日本軍が大勢来るのを見て、彼は逃げました。それで、日本軍は彼を撃ち殺そうとしましたが、彼を知っているスタッフが彼には仲間がいると言ったのです。そして、彼は日本軍の軍医に、彼を「治療」するように頼んだのです。

問 : 私は、あなたが「殺す」といったのかと思いました。それで

たのです。

〈日本軍の来訪〉

ジョン：私は森の中にすばやく逃げ込みました。森の中では、暗くて何も見えません。私は森の中に住んでいました。逃げなければ、死んでしまいます。ティーモンに戻ったときには、もう誰も生きてはいませんでした。

問：日本軍が最初に来たときには、どこに来たのですか？

ジョン：もう数十年前のことです。いまはもう覚えていません。最初は、1942年にやってきて、2年目の8月に日本軍が人を殺したのです。

問：日本軍は何人でやってきたのですか？

ジョン：だいたい50人から60人です。自転車に乗ってやって来ました。

問：彼らはどこから来たのですか？

ジョン：コタ・ティンギには船に乗って来て、それから、舟でパンチャーにやってきて、そしてパンチャーからは自転車に乗ってきたのです。

問：それはみな日本人だけでしたか？

ジョン：そうです。それにマレー人のスタッフがひとりいました。

問：彼らの服装はどうでしたか？制服を着ていましたか？

ジョン：全員、制服を着ていました。

問：それでどうでしたか？

ジョン：中国人で、コック・ロックという名前の男がいて、日本軍を見たときに逃げました。日本軍は彼を撃ったのですが、当たりませんでした。

問：彼は、日本軍が最初に来たときに撃たれたのですか？

ジョン：そうです。日本軍も、いい人間か、悪い人間かわかりますか

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

しましたが、見つかりませんでした。(戻ってみると) たくさんの方が死んでいました。私たちはあちらこちら、父の遺体を求めて、いろいろなところを捜しました。死体の顔をひとつひとつ見ていきました。溝にも死体が積み重なっていました。鶏を捕まえるために掘られている溝です。積み重なっている死体の山の中から手が見えると、私の母は死体をかき分けて、その手を見分けようと思いました。私たちには、自分の父親の手がどんなだったかわかっていましたし、手からでも何とか父を見つけようとしたのです。ですから、死体の山で、死体の顔が見えなくとも、この手は違う、あの手はどうか、と見ていったのです。服からもわかりますから、倒れている遺体の服を見ては、これは父の服とは違う、あれも違う、と見ていきました。

問 : そのときの気持ちはどうでしたか？

チョン : 必死でした。泣きながら、死体の顔を見て、これは違う、あれも違う、と見ていきました。顔が見えなくとも、この(死体の)手は違う、あの手も違う、と見ていったのです。

問 : 日本軍は人を殺して、腕を切り落としたりもしていたのですか？

チョン : はい。ナイフを使って切ったのです。ほかのときには、家をみな燃やしてしまうのを見ましたし、その炎が見えました。夜に、豚を捕まえようと思っても、私たちは夜間に外に出られませんが、日本軍はできますから。日本軍が鶏を取っていったこともありました。鶏を取るための穴に落ちたりもしました。それからは、日本人も穴のことがわかって、穴を掘っていました。ひとつの穴が、3フィートの大きさで、4フィートの長さで、15フィートの深さなのです。それ以降は、みんなそこに落ちてしまって、マレー人でも落ちた人がいます。その穴は、鶏を捕まえるためのものですが、そこに死体が積み重なってい

な、イギリス軍に追われて退去して、エステートは監視されました。日本軍が来るまでは、日本人所有のエステートが一番高い賃金を払っていました。男には80セン、女には60センです。

問 : そのエステートですか？

ジョン : 日本人のエステートですよ。

〈森に逃げて〉

ジョン : 日本軍が来る前は、私はタピオカやさつまいもを植えていました。でも、日本軍が来て、私たちは逃げたのです。日本軍は首を切りに来ますから。塩を持って、ジャングルに逃げました。日本軍政期は、塩を手に入れるのもたいへんでした。塩があったから、森の中で2年間も生き抜いてこられたのです。

問 : それでは、塩を持ってジャングルの中に逃げ込んだのですね？

ジョン : そうです。 коммуニストがしょっちゅう来ては悪いことをする。逃げなければ、日本軍が首を落しに来るとわかっていました。私は塩を持って、壺に入れて保存して、ジャングルに埋めておいたのです。ある朝、朝の7時に、日本軍が頭を切り落とすに來るぞと人に言われて、私も逃げたのです。

問 : なぜジャングルに塩を置いておいたのですか？

ジョン : あとで日本軍が撃ってきて、私たちは逃げたのですが、もう（その前に）自分たちの物は森の中に隠しておいたのです。塩はつぼに入れて、森の中に埋めておいて、それを後から掘り出しては、使っていました。

〈父親の遺体を捜して〉

ジョン : 私の父は逃げようとしなかったのです、捕まってしまいました。父は捕まって、行方がわからなくなったのです。村に戻って探

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

チョン：まだ学校に通っていました。私は、小学校の3年生まで学校には行っていません。

〈戦争の始まり〉

問：日本軍がマラヤに来たときには、そのことをどうやって知りましたか？

チョン：1942年に、朝の5時にシンガポール爆撃の音を聞いて知りました。それからナンヨーとパンチョーにも攻撃がありました。日本人のボスがエステートから来て、ナンヨーにも日本軍が来ました。

問：日本人のボスがここに来たのは、何の目的があったのですか？

チョン：ナンヨーやアサヒといった日本人のエステートの視察です。

問：そのボスは、ナンヨー・エステートに長くいたのですか？

チョン：知りません。

問：その日本人は、タウケ（親方）ですか、それともエステートのマネージャーですか？

チョン：タウケ（親方）ではないですが、タウケと呼ばれていました。

問：その日本人のタウケがここにいたのはどれぐらいですか？そして、その日本人のタウケが最初にマラヤに来たのはいつですか？

チョン：その日本人のタウケは、ここにかなり長く住んでいた人です。

問：その日本人は、どうやってマラヤから出ていったのですか？

チョン：シンガポールで爆撃があって、イギリス軍とマラヤ軍が日本人の地域を包囲して、日本人はみな追われて、退去したのです。

問：ジョホールには日本人がどこにでもいるのに、なぜイギリス軍はティモンに来たのですか？日本人のタウケが逃げていったのはいつで、それをあなたが知ったのはどうやってですか？

チョン：私は、その日本人のボスを知っていたから。日本人がみ

チョン：父は50歳ぐらいで、母は40歳ぐらいでした。

問：ご兄弟で、長子と、末子はいくつでしたか？

チョン：長子が30歳足らずで、末が11歳でした。

問：末の方はまだ学校に通っていましたか？

チョン：はい。

問：ほかのご兄弟は？

チョン：上の兄弟は、学校には行っていません。

問：現在、何をしていますか？

チョン：一番上の兄は、木材業です。

問：上のお姉さんは？

チョン：エステートの事務員です。

問：日本軍が来たときには、学校にはどれぐらい行っていましたか？

チョン：小学校の3年生までです。

問：学校には、合わせて何年間、通いましたか？

チョン：わかりません。

問：ご兄弟の場合はどうですか？たとえば、上のお姉さんは？

チョン：2年か3年です。

問：そのころ、住んでいた家はどんな家でしたか？

チョン：高床式の田舎の家です。

問：どこのお生まれですか？

チョン：ジョーホールのティモン（帝問）です。

問：何年生まれですか？

チョン：証明書によると、1929年生まれですが、実際には1928年生まれです。

問：それでは、年齢は57歳ですね。ご兄弟は何人ですか？

チョン：上に3人おられます。

問：当時の仕事は何でしたか？

ね。

チョン：いいですよ。

問：日本軍が来たときには、チョンさんはどこに住んでいたのですか？

チョン：リー・ブーン・エステートです。

問：ここにはどれぐらいの人が住んでいたのですか？

チョン：同じエステートに、1,000人ぐらい住んでいました。日本軍が来たときには、多くの方がよそに逃げていきましたが、私は逃げませんでした。

問：なぜ、たくさんの方がよその場所に逃げていったのですか？

チョン：日本軍が来た最初の年は、彼らも悪いことはしなかったのですが、2年目には、中国人を殺し始めたのです。

問：それは、何年のことですか？

チョン：1943年のことです。

問：そのとき、お歳はおいくつでしたか？

チョン：15歳でした。

〈家族について〉

問：チョンさんのご両親は何の仕事をしていたのですか？

チョン：商売をやっていました。

問：お母さんは？

チョン：主婦です。

問：ご両親の店を手伝うことはありましたか？

チョン：はい、ありました。

問：ご兄弟は？

チョン：3人の姉妹と私を入れて2人の男兄弟です。家は商売をやっていましたが、貧しかったです。

問：ご両親のお歳は？

問 : ありがとうございます。

—インタビュー 12 終わり—

### 《インタビュー 13》

チョン・テク・ワン（鍾徳満）氏。68歳。1927年に、トゥロック・スガットのナンヨー・エステートに生まれる。日本軍政期に、父親が華人虐殺の犠牲者となり、その彼の体験は、現地の新聞でも幾度も取り上げられている（たとえば、「星州日報」1995年7月18日付けのジョホール州版）。当初は、その事件については話すと悲しくなるので話したくない、との本人の意向で、その事件以外について聞くという形で、1995年8月5日に本人の経歴とエステートでの仕事についてインタビューしたが、翌年8月、記録として残すことの意義を理解してもらい、再度インタビューに応じてもらった（1995年8月5日トゥロック・スガット村のコーヒーショップ、さらに1996年8月7日同村の本人の自宅でインタビューした）。

〈エステートについて〉

問 : 日本軍政期について、お聞きしたいのですが。

チョン: タンジュン・ブアイについて聞きたいのですか？ それともリー・ブーンについて聞きたいのですか？ リー・ブーンは、ナンヨー・エステートのことですよ。

問 : どちらもお聞きしたいです



チョン・テク・ワン（鍾徳満）

問 : 当時、お兄さんはマレー語を話せましたか？

パン : 話せました。

問 : お兄さんは、中国語の方言は何ですか？

パン : 海南です。私は客家です。

問 : ご家族の中では、どの言葉を使いましたか？

パン : 何でもだいじょうぶです。海南でも、客家でも、話せます。

問 : お兄さんと話すときは、どの言葉で話しましたか？

パン : 海南です。

問 : 南洋新報の記者は、いつここに来たのですか？

パン : 2年前に来ました。今年も来て、新聞にも先月、記事が載ったばかりです。

問 : その人は、どこから来たのですか？

パン : JB (ジョホール・バル) の支局からです。その人は、新波日報で働いていた人ですが、その後、南洋新報に転職した記者です。

問 : 年配の人ですか、それとも若い人ですか？

パン : 40歳ぐらいの人です。

問 : 名前は？

パン : わかりません。

#### 〈現在の暮らし〉

問 : この店はどれぐらい続けていらっしゃいますか？

パン : もう40年になります。

問 : この店は、大きいですし、お客さんも多いですね。

パン : 食べていくのに十分なだけですよ。儲けはないですね。

問 : お子さんは何人ですか？

パン : 男の子が2人に、女の子が3人です。もう孫もおります。

問 : 大きいお子さんもここにお住まいですか？

パン : はい。エステートの事務員をしております。

パン：1960年ごろです。

問：そのころは、何の仕事をしていましたか？

パン：働いておりません。

問：では、生活はどんなでしたか？

パン：子どもが働いていましたので。

問：お兄さんのお子さんは、何人ですか？

パン：男の子が1人、女の子が3人です。

問：再婚した相手との間には、お子さんは？

パン：1人います。

問：お兄さんは、あの事件のことをよく話しましたか？

パン：はい。現在はもういいですが。

問：シンガポールには、たくさんの日本人が買い物や観光にきますが、それについて何が話していましたか？

パン：(シンガポールに移ってから)もう兄も年を取っていました。彼が亡くなったのは、もう80歳のときでしたから。何もそうしたことは話しませんでした。

問：彼は日本についてはどう話していましたか？日本が嫌いだとか、何か話していましたか？

パン：そうしたことは話しておりません。きっと性格がいいのでしょう。

問：ランピンから逃げたときに助けてくれた人のことを話していましたか？それは誰だったのでしょうか？

パン：彼が海に逃げたときに、漁をしていた人に出会ったのです。

問：それは、どこの人ですか？

パン：タンジュン・ブアイの人です。

問：その人は、名前は何と云うのですか？

パン：知りません。マレー人の名前は難しく、その人の名前はとても難しかったです。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

パン：コミュニストはいませんでした。でもギャングはいました。

問：ランピンに住んでいる人でギャングがいたのですか？

パン：はい。ランピンに住んでいる人で、日本軍が来るなら知らせる人もいました。

問：ギャングは、日本軍になにか悪いことをしたのですか？

パン：悪いことはしません。

問：当時、2年か3年、日本軍がここにおいて、日本軍は中国人を悪い連中と考えていたでしょうが、中国人は日本軍をどう考えていましたか？

パン：当時、日本軍はしょっちゅう来たわけではないですが、もしも悪く言う人間がいたら、殺されましたね。逃げなかったら、殺されるのです。

〈日本降伏と戦後〉

問：当時、あなた自身は、どうやって日本軍の降伏について知りましたか？

パン：みんなが知らせてくれました。それに日本の金（軍票）が使えなくなりました。当時、私の兄はたくさんの金を持っていましたが、使えなくなりました。

問：戦後、お兄さんは何の仕事をしましたか？

パン：戦後は、兄は働いていません。やめたのです。

問：お兄さんの阿センは、いつ結婚したのですか？

パン：1945年です。

問：それで妻はいつ亡くなったのですか？

パン：もうずいぶんになります。40年前です。

問：お兄さんは再婚しましたか？誰とですか？

パン：はい、シンガポール出身の人と再婚しました。

問：お兄さんは、いつシンガポールに引越したのですか？

問 : どんな様子でしたか？

パン : たくさんの死体をひとつの場所に埋めるのを手伝いました。

問 : 誰とそこに行ったのですか？

パン : 私の兄といっしょでした。

問 : そのお兄さんは、そこから逃げてきた阿センですか？

パン : そうです。死体をみな、埋めるのを手伝いました。

問 : その場所はどこですか？ まだそこにありますか？ それともその後、埋葬し直していますか？

パン : そのままですよ。現在はもうありません。もう油ヤシを植えてありますよ。

問 : 私がこのことをマホメッド・ノアと話したときには、彼は 30 人以上の人が殺されただろうと話していましたが、ほかの人は、ランピンの人といっしょに、(エステート内の) 小屋の人たちも連れてこられて殺されただろうと言っていました、そうなのでしょうか？

パン : (ランピンの) 中国人はみな、死にました。

問 : 日本軍はランピンの人を殺したのですが、ほかの人もいますか？

パン : 近くに住んでいた村の人はみな、やられました。爆弾みたいなものですね。近くのものはやられて、遠くや逃げたものはやられなかったのですから。

問 : ランピン以外で、この地域で殺された中国人はいましたか？

パン : いません。ランピンだけです。ここでは、日本軍は悪いことはしていません。

問 : なせ日本軍はランピンに来て、そこの中国人をみな殺そうとしたのでしょうか？

パン : 殺したかったのでしょうかね。私にはわかりません。

問 : 当時、ランピンにコミュニストはいなくて、ふつうの中国人だけだったのでは？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

ンガポールに戻って行ったのを見たと言っていました。そして、ランピンに様子を見に行ったと。あなた自身は、ランピンに様子を見に行きましたか？

パン：はい、舟に乗って、様子を見に行きました。

問：阿センは逃げてから、家に帰ったのですか？

パン：そうです。

問：阿センは、どれぐらい家にいたのですか？

パン：1年はいました。タウケ（親方）が仕事があると呼びに来たら帰って、そしてほかの人を呼んでは働いて、それから自分の土地を開いたのです。

問：彼はタンジュン・ブアイで働いていたのですか？

パン：そうです。ゴムのタッパーです。

問：ランピンで中国人が殺されてから、その後、いつお兄さんはランピンに帰ってきたのですか？それとも戻りませんでしたか？

パン：戻ってきました。タウケ（親方）が彼にエステートで働くように呼んで、戻ってきました。1957年までいました。タンジュン・ブアイに戻ってきました。ポーウ・レンはもう売却されていて、リー・レイボウ・エステートに変わっていました。そのころは、私の兄も、私自身ももう（エステートの仕事は）やめていました。私には、シンガポールに行っていた兄がおりました。

問：そのころ、お兄さんは何の仕事をしていたのですか？

パン：ゴムのタッピングです。当時、私の兄はタンジュン・ブアイに住んでいて、舟に乗ってそこに働きに行っていたのです。

〈虐殺のあったランピン〉

問：ランピンで中国人が大勢殺されてから、あなた自身はいつランピンに様子を見に行ったのですか？

パン：次の日の朝に、私は行きました。

まくしゃべっていきました。

問：当時、あなた自身はどこに住んでいたのですか？

パン：タンジュン・ブアイのエステートです。マレー人が遊びに連れていったのです。いい人でした。

問：日本軍が来た時には、ご両親はどう話していましたか？

パン：日本軍を手伝っているマレー人がいて、私たちはいい人間だから日本軍が悪いことをすることはないとその人が言っていました。

問：日本軍は中国人が悪い人間だと考えていたのでしょうか？

パン：当時、中国人が悪いことをしょっちゅうやっていました。当時は食べ物も仕事もなかったですから。働きたくとも、日本軍がよく来ては悪さをしていましたから。それで、私たちはギャング集団を作っては、日本軍と戦おうとしました。現代にだってギャングはいますし、どこにだってギャングはいるものですよ。

〈その後の阿セン〉

問：彼は、日本軍についてはどう話していましたか？

パン：当時、日本軍はしょっちゅう、あちらこちらに行ったり来たりしていました。でもある日、ランピンに悪い人がいると言った人がいて、日本軍が捕まえに来たのです。

問：お兄さんは、どう縛られて、どう逃げたか、どのように話していましたか？

パン：そのとき、彼は縄で縛られましたが、たぶん、どうにかその縄をほどいて、そして川に逃げたのです。日本軍は撃ってききましたが、当たりませんでした。

問：その後、彼はどう話していますか？

パン：彼は、みんな、捕まってしまって、焼き殺されてしまった、と話していました。

問：タンジュン・ブアイに住んでいた人は、日本軍がランピンからシ

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

から、火を付けて焼き払ったのです。包囲されていましたが、もう逃げることもできません。

問：それは何時ぐらいのことでしたか？

パン：それは朝の10時過ぎで、12時ぐらいでしょう。

問：その頃、ランピンには誰が住んでいたのですか？

パン：ランピンで働いていた中国人とその家族が住んでいました。私の兄は、捕まるのを知っていたと言っていました、河に逃げ込んで、人に助けてもらったと話していました。兄は、ほかの人はみな死んでしまったが、自分だけが命を長らえたと話していました。

問：日本軍はなぜランピンに来たのでしょうか？

パン：わかりませんが、ランピンにコミュニストか何かいると言った人がいたのでしょうか。それで、コミュニストが悪いことをするかも知れないと日本軍が心配したために、皆殺しにしたのでしょうか。

問：ランピンに住んでいた人の中に、コミュニストはいたのでしょうか？

パン：その前はいたでしょうが、日本軍が来た時には、彼らは恐がって、ジャングルの中に逃げてしまっていました。

問：そうであれば、日本軍は、どうやってランピンに住んでいた人に、コーヒーショップに来るように言ったのでしょうか？

パン：ここにいる人はいい人達なのでコミュニストのように逃げようとはしなかった、と言っていました。日本軍は、みんなに鶏の料理を与えたので、食べている最中なら逃げることはできませんよね。

問：日本軍は、何時にランピンにやってきたのですか？

パン：早朝にもう来ていました。

問：彼らは、どう話したのですか？

パン：友達どうしみたいにですよ。彼らは、コーヒーショップに来てう

パン：タンジュン・ブアイです。

問：どこのエステートですか？

パン：ボーウ・レンのエステートです。

問：そこのタウケは中国人ですね。

パン：そうです。シンガポールから来ている中国人の雇い主なので、私の兄はエステートの経営を手伝っていただけです。

問：お兄さんは、エステートで働いていたのですか？

パン：そうです。エステートです。

問：お兄さんのほかに何人の人が働いていたのですか？

パン：40人ぐらいでしょう。

問：その人たちはどこから来ていたのですか？ タンジュン・ブアイから来ていたのか、ランピンからか、それともどこでしょうか？

パン：その人たちも近くの村の人達です。

問：当時、お兄さんはもう結婚していらっしゃいましたか？

パン：その頃は、まだ結婚していませんでした。

問：いつ結婚なさったのですか？

パン：日本軍が日本に帰った後で、兄は結婚しました。

問：戦争が終わってからですか？

パン：そうです。

#### 〈兄の体験について〉

問：日本軍が来た時は、お兄さんはどなたといっしょに暮していらっしゃいましたか？

パン：私の家はほかの人の家からちょっと離れているので、何も悪いことはありませんでした。マレー人が1人いて、その人はいい人で、その人が私を日本軍が見えないぐらい遠くまで連れていってくれたのです。日本軍は、料理をするように命じて、みなに食べ物を与えました。その後、みんなを捕まえて、縛りました。それ

12歳で、もう働いていました。多くの人がそうでした。

〈家族について〉

問：日本軍政期には、ご両親は何の仕事をしていましたか？

パン：野菜を作っていました。

問：ご兄弟姉妹は、何人ですか？

パン：4人兄弟です。

問：まだ生きていらっしゃいますか？

パン：もうみな、亡くなっております。

〈兄について〉

問：この人がいうには、お兄さんがランピンから逃げのびたという話でしたが、どなたからその話を聞きましたか？

パン：兄本人からですが、現在は亡くなっています。

問：もう亡くなられてどれぐらいですか？

パン：もう3年になります。

問：（お兄さんの）お名前は阿センですか？

パン：そうです。阿センです。

問：本当の名前は、パン・ユ・センで、ニックネームが阿センですね？

パン：そうです。マレー人は、彼のことを阿センと呼びましたが、家族はユ・センと呼んでいました。

問：当時、阿センは何の仕事をしていたのですか？

パン：農業です。

問：誰かに雇われていたのですか？それとも、自分で働いていた（自営）のですか？

パン：雇われていました。

問：どこで働いていたのですか？

ユ・センは数年前に亡くなったが、本人から、日本軍が村に来て、その現場から逃げ出した状況について、たびたび聞いていた。商売など日頃でもマレー語を使っており、コミュニケーションにも問題がないようなので、インタビューでは、本人の了解も得てマレー語を用いた（1996年8月7日、トゥロック・スンガッ村の本人の雑貨店でインタビューした）。

〈本人について〉

問：何語でインタビューしましょうか？

パン：マレー語ですね。

問：お忙しいことと思いますが、お時間は大丈夫ですか？

パン：大丈夫ですよ。

問：現在、歳はおいくつですか？

パン：56歳です。

問：当時、歳はおいくつでしたか？

パン：当時は、私は5歳でしたので、ちょっとしかわかりませんでした。

問：当時は、日本軍のことやら何やらもうわかっていましたか？  
それともまだ小さすぎましたか？

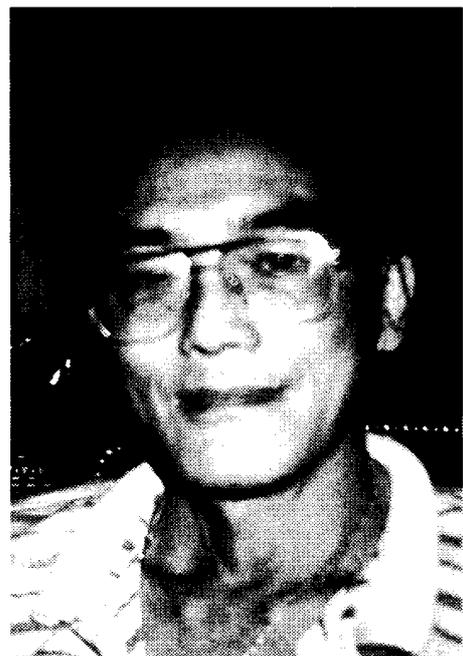
パン：（状況がわかるには）まだ幼かったですね。

問：学校には通いましたか？

パン：いいえ。8カ月だけです。

問：なぜ学校に行かなかったのですか？

パン：もう働いていましたので。私は



パン・チット・シェン(彭接生)

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

を手に入れようとしていました。

問 : 日本兵は、日本の国のことはどう話していましたか？

モハメッド : そのころ、彼らは日本の国はすばらしいと話してました。

問 : 彼らは、マラヤも日本のようにならなければならないと話してましたか？

モハメッド : そうです。彼らはそう話して、マラヤを目覚めさせようとしていました。

問 : その時には、あなた自身はどう考えていましたか？

モハメッド : その時も、マラヤが平和になって、いっしょになればと思っていました。

問 : でも、日本軍はランピンの普通の中国人を殺していたので、ほかのところの人も殺すかもしれないと思わなかったですか？

モハメッド : 当時は、そうは考えませんでした。私たちは、日本がマラヤといっしょにやっていけたらと思っていたのです。

問 : ここに来て、日本軍がランピンに行ってどのように中国人を殺したか、あなたご自身が体験したことがよくわかりました。ありがとうございました。

モハメッド : どういたしまして。

問 : ありがとうございました。

—インタビュー 11 終わり—

《インタビュー 12》

パン・チット・シェン (彭接生) 氏。56歳。ランピンにおける華人虐殺の唯一の生存者といわれるパン・ユ・セン (彭裕成) の弟。パン・

て、彼らが私達に撃ってきたら、こちらも撃ちました。

問 : そのときは、あなたは誰とジャングルに行きましたか？

モハメッド : 日本兵とです。

問 : みんなで何人ぐらいですか？

モハメッド : 1小隊で、30人足らずです。

問 : コミュニストとはもうそこで3回か4回か出くわしているわけですが、彼らはたいてい何人ぐらいでしたか？

モハメッド : 出くわすとしたら、いつも彼らは撃ってきますので、みんなで何人いるかは見えません。

問 : 彼らは撃つのは上手かったですか？

モハメッド : 私たちには彼らは見えませんでした、上手かったと思います。

問 : 当時の日本人の友達の中で、コミュニストに殺された人はいましたか？

モハメッド : いました。

問 : だいたい何人ですか？

モハメッド : (ジャングルに) 行くたびに毎回2人か3人です。

問 : マレー人ですか、それとも日本人ですか？

モハメッド : マレー人もいれば、日本人もいました。

問 : ご自身はだいじょうぶだったのですか？

モハメッド : だいじょうぶです。何も起こらず、幸運でした。

問 : でも、当時、コミュニストと戦わなければならなくて、どう思いましたか？ 恐かったですか？

モハメッド : 当時は決まっていたから、恐がるも何も、戦うだけです。恐かったとしても、同じことで、戦うのです。

問 : そのころ、日本兵はコミュニストのことをどう話していましたか？

モハメッド : そのころは、彼らはコミュニストはすべて殺して、マラヤ

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

問 : あなたは、ときどきはジャングルの中で коммуニストを殺さなければならなかったということでしたが、どれぐらい頻繁に коммуニストに出くわしたりしたのですか？ また、どれぐらい日本軍で働きましたか？

モハメッド : 2年足らずです。ジャングルに入るたびに、 коммуニストには出くわしましたが、日本兵だけが коммуニストを撃ちました。私たちは後から付いていただけです。

問 : 日本兵があちらこちらに行って、銃で撃ったりするのは、かならず付いていかなければならなかったのですか？

モハメッド : はい、戦わなければなりません。

問 : あなたが知っている коммуニストの人と出くわしたことはありましたか？

モハメッド : 知っている人はいませんでした。彼らはこの者ではありません。

問 : コミュニストと出くわしたのは何回でしたか？

モハメッド : 私が働いていたときで、おそらく3回か4回ぐらいです。

問 : 当時、2年ぐらい働いていて、3回か4回だけですか？

モハメッド : そうです。

問 : 彼らの中には、この人もいましたか？

モハメッド : 当時、ここからの人か、よそのところからの人かは私たちは知りませんでした。私の知っている人はいません。

問 : 彼らはどこから来たのでしょうか？

モハメッド : コタ・ティンギの地域内とは思いますが、この地域からではありません。

問 : 彼らはジャングルの中に住んでいたのですか？

モハメッド : そうです。ジャングルの中です。

問 : 彼らが撃ってくるのですか？

モハメッド : 私たちがジャングルの中に入っていくと、彼らに出くわし

の人に、ランピンで殺された人を埋めるように要請したと  
いうことですが、それは本当ですか？

モハメッド：それはわかりませんが、その後で見に行った人が大勢いま  
したから、たぶんタンジュン・ブアイの人でしょう。

問：その記事には、家はみな焼き尽くされ、死体が山のように  
なって、遺体は、男も女も焼かれて黒くなっていた、とい  
うことです。それは見ましたか？

モハメッド：それは聞きました。

問：幼い子どももいたということですが、小さな子どもは何歳  
ぐらいでしたか？

モハメッド：学校に行く前の小さな子どももいました。

問：幼児も殺されたのを見たときには、どう感じましたか？

モハメッド：かわいそうだと思いましたが、はっきりとはわかりません  
でした。

#### 〈日本軍への入隊〉

問：その後、あなた自身は日本軍に入ったわけですが、日本軍  
が中国人をどのように殺したのを見た後で、どうして日本  
軍に入隊したのですか？

モハメッド：そのときは、日本軍が村の男性すべてを呼び集めて、全員  
に来るように言ったのです。(軍に)行かなければ、後で  
逮捕されます。日本軍が、村長に会いに来て、男たちみんな  
を集めるように要請して、そのときに入隊することにな  
ったのです。

問：そのとき、あなたは日本軍がふつうの中国人を殺したのを  
どのように知りましたか？

モハメッド：知りませんでした。その当時は、自分たちのことを考える  
だけ(で精一杯)でしたから。

るとは思っていなかったのではないですか？

モハメッド：私たちだって、あそこに коммуニストがいたとは知りませんでした。私たち、この村の人間は何もわかりませんでした。日本軍が来た時に知っただけです。

問：日本軍がタンジュン・ブアイや近くの中国人を殺しましたが、その話は聞いていましたか？

モハメッド：まだ知りませんでした。

問：日本軍が、ランピンのふつうの中国人を殺したことを考えると、現在、いかがですか？

モハメッド：いろいろなところで、彼らは30人も殺してしまったと思います。たぶん、日本軍は、なにか情報を得たか、 коммуニストへの協力に関わった人の名前などの情報を得たのでしょう。彼らは、この中国人がみな、そのうち коммуニストになると懸念していて、そのために全員を殺したのでしょう。よそではこのようなことはしていませんから。私はそう思いますよ。もしなんでもないなら、なぜ日本軍がここの人を全員殺したりするのでしょうか。

問：でも、タンジュン・ブアイの人はランピンの人を知っていたでしょうから、どう話していましたか？

モハメッド：同じです。そのころ、タンジュン・ブアイに住んでいた私たちは、 коммуニストが好きではなかったですから。

問：ランピンで殺された人の中には、女性や子どももいましたが、何人でしょうか？

モハメッド：わかりません。あのときは、私たちは見に行っただけですから。

問：そこで殺された中国人を埋葬したのは誰ですか？

モハメッド：わかりませんが、おそらくその村の人だと思います。

問：私が読んだ新聞の記事では、日本軍がランジュン・ブアイ

モハメッド：この人です。

問：その人を知っていますか？

モハメッド：知っていますが、名前はわかりません。もう亡くなっています。

問：いつ亡くなったのですか？

モハメッド：もうずいぶん前です。あの頃すでに年配でした。

#### 〈日本軍の虐殺〉

問：日本軍が、どうして中国人を皆殺しにしたのかは聞きましたか？

モハメッド：どうしてかは知りませんが、たぶん日本軍は、噂を聞いて調査をして、コミュニスト（Malayan People's Anti-Japanese Army: MPAJA, 「馬來人民抗日軍」のこと）に（村の人が）何らかの関係があるかも知れないという情報を得たのでしょう。彼らはマレー人は殺しませんでしたから。

問：日本軍がやってきて、あなた自身が知っている人たちを殺したことを知って、気持ちはどうでしたか？

モハメッド：恐かったです。（日本軍が）ここにやってきて私たちを殺そうとするのではないかと不安でした。

問：ランピンには、コミュニストのために活動していた人はいたのですか？

モハメッド：当時は、私たちは知りません。

問：この村の人は多くが、ランピンの中国人を知っていたのでしょうが、コミュニストになったランピンの人について話していましたか？

モハメッド：いいえ、ありません。

問：おそらく、この村の人は、ランピンにコミュニストがい

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

モハメッド：ズボンだけを着ていて、身体には傷がありました。

問：彼が、ランピンから逃げて来たということはどうやって知りましたか？ 彼のことはもう知っていたのですか？

モハメッド：いいえ、知り合いではありませんでした。

問：おそらくこの村の人が彼と知り合いで、ランピンから逃げてきたとわかったのでは？

モハメッド：そうですね。

問：彼はどこにいたのですか？

モハメッド：わかりません。

問：それ以前は、彼はどこに住んでいたのですか？

モハメッド：バトゥ・ブルッです。

問：阿センは、どれぐらいタンジュン・ブアイにいたのですか？

モハメッド：長くはいなかったと思います。日本軍がすべて（彼の村から引き上げて）いなくなってから、シンガポールに逃げていきました。

問：あなた自身は、阿センがどうやってランピンから逃げてきたのか、知らないのですね？

モハメッド：それは知りません。

問：阿センがランピンから逃げてきたことは、どのように知りましたか？

モハメッド：ランピンから逃げてきた阿センという名前の中国人がいて、彼を助けてここに連れてきた人がいる、という話を村の人から聞きました。

問：あなた自身は、阿センを助けてランジュン・ブアイに連れてきた人とは話をしたのですか？

モハメッド：いいえ、それはありません。

問：その漁師の人はどこに住んでいたのですか？

〈ランピンに来た阿セン〉

問 : その阿センは、ここにはどう来たのですか？

モハメッド : 村の人で、魚を捕りに行った人がいて、彼に会って、ここに連れて帰ってきたのです。

問 : その人は漁師ですか？ それとも普通の人ですか？

モハメッド : 漁師です。

問 : 名前は？

モハメッド : 知りません。阿センはその人が誰か、言いませんでしたから。でも、彼は漁をしていた人が彼を助けてくれたと話していました。

問 : その村の人は、この村の人ですか？

モハメッド : そうです。この村の人です。

問 : その漁をしていた人は、どこの人ですか？

モハメッド : スンガイ・ラヤウ（ラヤウ川）の人です。

問 : その人は、どこで阿センに会ったのですか？

モハメッド : 阿センはもう海に（逃げるために）入っていたので、阿センには海で会ったのです。

問 : 阿センはどうやってそこに来たのですか？

モハメッド : そこには人がいるのを知っていたからです。

問 : その漁師は阿センを誰のところに連れて行きましたか？

モハメッド : それは知りません。

問 : あなた自身は、その時に彼と話したのですか？

モハメッド : いいえ。彼とは話していません。

問 : でも彼を見たりはしたのですか？

モハメッド : 見ました。

問 : 見た感じはどうでしたか？

モハメッド : そのときは、彼は怖がっているように見えました。

問 : 着ている物はどうでしたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

- 問 : みな、ランピンに住んでいた人たちですか？
- モハメッド : そうです。コンシ（小屋）に入っていた人たちです。
- 問 : 彼らはどこから来たのですか？
- モハメッド : ブキッ・ティンギから降りてきたのです。
- 問 : 彼らは誰のところで働いていましたか？
- モハメッド : エステートで働いていました。
- 問 : どのエステートですか？
- モハメッド : ボーウ・レン・エステートの労働者や、ブキッ・ティンギの労働者です。

〈阿センの逃亡〉

- 問 : 阿センは、そこからどうやって逃げたのですか？
- モハメッド : 彼は逃げて、ここに助けを求めたのです。
- 問 : 何時のことですか？
- モハメッド : もう午後の4時とか5時ぐらいです。
- 問 : 村の人があそこに行ったときには、まだ火は残っていませんか？
- モハメッド : ええ、まだ燃えていました。
- 問 : そのとき、その人はいましたか？
- モハメッド : もう亡くなっていました。
- 問 : その人はみな死んでいたのですか？
- モハメッド : そうです。午後になって、阿センだけがやってきて、助けを求めたのです。
- 問 : ここから行った村の人は、その亡くなった人たちに対して何かしたのですか？ それとも見に行っ、そして帰ってきただけですか？
- モハメッド : 帰ってきただけです。

モハメッド：(炎は) 見えませんでした。煙は見えました。

問：その後、この村の人はなぜあそこに行ったのですか？

モハメッド：何が起こったのか、見たかったからです。

問：日本軍が帰ったということはどうやってわかりましたか？

モハメッド：日本軍の船がここを通過していましたから。

問：ランピンに行った村の人はだいたい何人ぐらいですか？

モハメッド：見に行こうという勇気があったのは、10人から15人ぐらいです。

問：タンジュン・ブアイの村に住んでいたのは何人ですか？

モハメッド：当時は、200人ぐらいです。

問：あそこに行くには、何に乗って行ったのですか？

モハメッド：自分の舟に乗っていきました。

問：この家からは誰が行ったのですか？

モハメッド：私と私の弟です。

問：ご両親は？

モハメッド：まだ弟や妹が幼かったので、行きませんでした。

問：あそこでは何を見ましたか？

モハメッド：もう焼きつくされていた家と死体を見ました。

問：顔はわかりましたか？

モハメッド：(顔は) みな、焼かれてもう黒くなっていました。みな、一軒の家に集められて、焼き殺されたのです。

問：遺体はどんなでしたか？

モハメッド：みな、炭のようになっていました。

問：その家はどれぐらい大きいのですか？

モハメッド：店になっている家で、2階建てでした。コーヒーショップだったと思います。

問：だいたい何人ぐらいが殺されたのでしょうか？

モハメッド：だいたい30人から40人ぐらいだと思います。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

モハメッド：日本軍が中国人を殺してしまったことを話していました。  
私たちは恐くて、逃げ出したかったのですが、日本軍はここには来ませんでした。船が出ていったのを見たときには、ここには来ませんでした。

問：その船は、日本軍の船ですか？

モハメッド：そうです。大きな船で、軍の1小隊が入れるぐらいです。

問：色はどうでしたか？

モハメッド：緑色です。当時の日本の軍隊が使っていた色です。

問：日本からの(船)ですか？

モハメッド：そうです、日本からのです。

問：船の名前を知っていますか？

モハメッド：それは見えませんでした。

問：その船は、いつランピンに来たのですか？

モハメッド：いつ来たのかは見ていませんが、日本兵を収容するために来たのを見たのです。

問：そうでしたら、あなたと弟さんがランピンに行ったときに、その船はもう来ていたのですか？

モハメッド：まだです。その船はその後で来たのです。日本軍は陸沿いに来たので、船を使って来たのではないです。

〈ランピンから戻って〉

問：あなたと弟さんは、ご両親にどう話しましたか？

モハメッド：日本兵がそこにたくさんいて、たぶん中国人を殺してしまっただろうと話しました。

問：タンジュン・ブアイからは、銃撃の音や何かは聞こえましたか？

モハメッド：聞こえました。

問：炎も見えましたか？

問 : たくさんの人の声ですか？

モハメッド : そうです。たくさんの人の声です。

問 : その時に聞こえたのは、男の人の声ですか？ 女の人の声でしたか？

モハメッド : 両方です。小さな子どもの声もありました。

問 : 舟から何か見えましたか？

モハメッド : はい、見えました。

問 : 日本軍が中国人を殺すのが見えましたか？

モハメッド : はい。中国人が逃げようとして、日本軍が後ろから銃を撃って、倒れるのが見えました。

問 : 日本軍は、何人の人を殺したのでしょうか？

モハメッド : どれぐらい多くの人かは見えませんでした。日本軍は村一つを滅ぼしたということですから、100人か200人ぐらいです。

問 : あなた自身は、何人の人が殺されるのを見ましたか？

モハメッド : 日本軍がもう引き上げていったときに、私たちは自分たちで見に行きました。すると、そのときにはたくさんの死体がありましたが、数えることはできませんでした。日本軍はもう全部の家を焼き払っていました。

問 : あなたが、ランピンからタンジュン・ブアイに戻ったときには、(日本軍が放った)火はもう見えたのですか？

モハメッド : まだです。

問 : その後で、ランピンにまた戻ったのは、どれぐらいたってからですか？

モハメッド : 1時間ぐらいたってからです。11時とか12時にそこに行きました。

問 : あなたと弟さんが家にいたときに、タンジュン・ブアイの村の人たちは何について話していましたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

モハメッド：帰るように命令されましたので、見えませんでした。

問：村の人は、どこに集められていたのですか？

モハメッド：店のあるところにです。

問：あなたと弟さんがそこに行ったときには、村の人は見えなかったのでしょうか？

モハメッド：見えません。遠くから見ていただけです。

問：日本兵だけが見えたのですか？

モハメッド：そうです。日本兵だけです。

問：そのときには、その中国人の声は聞こえたのですか？  
それとも聞こえませんでしたか？

モハメッド：聞こえませんでした。

〈虐殺の開始〉

問：いつ、彼ら（日本兵）は撃ち始めたのですか？

モハメッド：9時半ぐらいだと思います。その後5分ぐらいで戻りました。私たちも恐かったので、急いで帰りました。

問：戻るときに、舟から見えましたか？

モハメッド：はい。舟からは、中国人が逃げるのが見えました。

問：ほかの中国人はどうだったのですか？

モハメッド：日本兵がいちどきにみなを集めていました。

問：ほかの中国人が逃げたのは見えましたか？ それとも阿センだけですか？

モハメッド：阿センはその後で逃げたのです。みなを撃ち殺して、もう終わったときになって、逃げた人が一人いることを聞いたのです。

問：（日本軍が銃を）撃ったときに、中国人が叫んだり泣いたりする声が聞こえましたか？

モハメッド：泣き叫ぶ声が聞こえました。

問 : 彼らは何語をしゃべりましたか？

モハメッド : 日本語です。

問 : 彼らの中には、英語やマレー語をしゃべる人はいなかったのですか？

モハメッド : いまसेんでしたが、銃を見るだけで、私たちにはもうわかりましたから。

問 : 出て行けとか、入ってはいけないといったことを話す人はいなかったのですか？

モハメッド : いまसेん。そのときには、もう日本軍が村の人を一カ所に集めているのが見えました。

問 : そのときは、日本兵がたくさん見えましたか？

モハメッド : はい。そして彼らが日本語でうるさく言っているのが聞こえました。

問 : そのときに、(村の) 中を見ることができましたか？

モハメッド : いいえ。私たちは聞いていただけです。

問 : 村の人が外に歩いていくのは見えましたか？

モハメッド : 日本軍は彼らを外には出さずに、家の中で静かにしているようにさせていました。そのために、彼らには会うことはできませんでしたし、陸に上がろうとしたときには、日本軍が許しませんでした。私たちも、彼らが私たちを撃つのではないかと恐かったです。私たちは、音を聞いただけです。たくさんの人の物音を聞いたのです。私たちが帰ろうとしたときに、そのときに銃で撃つ音が聞いたのです。

問 : それでは、あなたと弟さんがそこへ行ったときには、まだ撃ち始めていなかったのですね？

モハメッド : まだです。

問 : 彼らは村に「入るな」と言ったのですが、奥にいたランピンの人が見えたのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

モハメッド：毎日行きました。

問：ほかの村の人はどうでしたか？

モハメッド：彼らも、食料を買うために毎日行っていました。

問：その事件（村民虐殺）が起こった日には、物を買いにそこに行く人はほかにいなかったのですか？

モハメッド：そのときはわかりませんが、わたしがそこに着いたときには日本軍は帰るように命令されました。

問：そこに行ったときは、だいたい何時ぐらいでしたか？

モハメッド：朝の8時半ぐらいにここをでて、あそこに着いたのは朝の9時ぐらいでした。

問：毎朝、そこに行くときには、弟さんとよくいっしょでしたか？

モハメッド：はい、いっしょです。

問：ご両親は？

モハメッド：両親は働いていますし、弟や妹たちの面倒をみていました。

問：あそこに行ったときに、最初に何を見ましたか？

モハメッド：そこ（ランピン）に着いたときに、日本兵が見えました。彼らは、戻るように命じました。村の中に入ることはできませんでした。

問：その日本軍は、だいたい何人ぐらいでしたか？

モハメッド：10人から20人ぐらいでしょう。

問：彼らは銃を持っていましたか？

モハメッド：はい。

問：彼らの様子はどうでしたか？顔つきは恐かったですか、それともリラックスしていましたか？

モハメッド：そのときは、なんでもありませんでした。普通の間でした。

問 : その人も殺されたのですか？

モハメッド : そうです。

〈ランピンに行った朝〉

問 : 食べ物を買いにあなたがランピンに行った日は、誰といっしょにそこに行ったのですか？

モハメッド : 弟といっしょでした。でも、その弟はもう亡くなりました。

問 : 男兄弟ですね。

モハメッド : そうです。弟です。

問 : そのとき、あなたは何歳でしたか？

モハメッド : 16歳か、17歳ぐらいだったと思います。

問 : 弟さんは？

モハメッド : 15歳か、16歳でしょう。

問 : 当時はどこに住んでいましたか？

モハメッド : ここです。

問 : ランピンはここからどれぐらいありますか？

モハメッド : 舟に乗って、半時間足らずのところですよ。

問 : 誰の舟ですか？

モハメッド : 自分たちの舟です。

問 : ランピンには、しょっちゅう行ったのですか？

モハメッド : 食べ物を買に行くときだけです。

問 : 当時、ここに店はなかったのですか？

モハメッド : ありませんでした。食べ物を買いたいときには、そこ（ランピン）に行かなければなりません。

問 : 食べ物などを買いたいときにはランピンに行かなければならないとしたら、食べ物を買いにしょっちゅうランピンに行ったのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(4)

問 : そのエステートは誰の所有でしたか? 白人のですか。それとも中国人のですか?

モハメッド : そのボーウ・レンの所有です。中国人です。

問 : そのマネージャーもランピンの人ですか?

モハメッド : そうです。ランピンの人です。

問 : そのボーウ・レン・エステートではどれぐらいの人が働いていましたか?

モハメッド : 知りません。でも、おそらく50人足らずでしょう。

問 : ランピンでは、どれぐらいの人がエステートで働いていて、どれぐらいの人が自分の土地(畑)を持っていたか?

モハメッド : エステートで働いていた人が多くて、自分の土地を持っていた人は10人足らずです。

問 : ランピンには、タウケは何人、いましたか?

モハメッド : ランピンに住んでいたオー・シー・スーンと、もう一人、オー・スーン・ジャックというタウケがいました。

問 : 彼らは家族ですか?

モハメッド : 彼らは兄弟です。でも、それぞれ別々のエステートを持っていた。

問 : 彼らはエステートのタウケですか?

モハメッド : そうです。

問 : 彼らは、ランピンの出身ですね?

モハメッド : そうです。

問 : でも、阿センは誰のところで働いていたのですか?。

モハメッド : ボーウ・レン・エステートのボーウ・レンのところで働いていました。

問 : マネージャーは誰ですか?

モハメッド : わかりませんが、ランピンで働いていた中国人です。

問 : ゴムのタッピングをしている人はどれぐらいいましたか？

モハメッド : たくさんいました。

問 : 4軒の店があったとしたら、その家族はだいたいどれぐらいですか？

モハメッド : たぶん 11 人いました。

問 : 3軒の家に、家族はだいたい何人いたのでしょうか？

モハメッド : 子どもや孫も入れて、20 人ぐらいです。

問 : それならば、中国人は 30 人とか 31 人ですか？

モハメッド : そうです。

#### 〈生存者の阿センについて〉

問 : 彼らのうち、そこに住んでいた人で生存者はいましたか？

モハメッド : 1 人だけ、いました。

問 : まだ子どもでしたか？

モハメッド : もう大きかったですよ。でも、その人（阿セン、すなわち彭裕成）はまだ独身で、結婚していませんでした。

問 : ここの近隣に、阿センさんの妻が埋葬されたところがありますね。彼はいつ結婚したのですか？

モハメッド : 戦時中はまだ結婚していませんでした。戦後になって、彼は結婚したのだと思います。

問 : 阿センさんは、当時、何の仕事をしていましたか？

モハメッド : ゴムのタッピングです。

問 : 自分の（ゴム）林ですか？

モハメッド : タウケの（ゴム）林です。彼は雇われていました。

問 : エステートはどこだったのですか？

モハメッド : 同じランピンです。

問 : そのエステートは何という名前でしたか？

モハメッド : ボーウ・レン・エステートです。

は呼ばれなかったの、見ているだけでした。

〈当時のランピン村〉

問 : その頃、村にはおよそ何人ぐらいの人が住んでいたのですか？

モハメッド : マレー人の家が5軒以下で、中国人が店を開いて、そこに住んでいました。

問 : 当時、店は何軒ぐらいでしたか？

モハメッド : その頃、店は4軒ありました。

問 : その店は何の店でしたか？

モハメッド : 食べ物屋が2軒、それにコーヒー(喫茶)店に理髪店がありました。

問 : マレー人の家が5軒というのは、みんなで何人ぐらいですか？

モハメッド : 10人もいなかったでしょう。

問 : 中国人の家はほかにはどこにありましたか？

モハメッド : ほかのところの中国人はここからは離れた場所ですね。

問 : 彼らは、どんな仕事をしていましたか？

モハメッド : ゴムのタッピングです。

問 : 当時、中国人の家は何軒ありましたか？

モハメッド : 3軒です。

問 : では、中国人の店が4軒に、家が3軒ですね。

モハメッド : そうです。

問 : 家族と一緒にですか、それとも別々ですか？

モハメッド : 別々です。

問 : 彼らは、自分たちの(ゴム)林でタッピングをしていたのですか？

モハメッド : そうです、自分の林です。

モハメッド：当時、マレー人が物を買に行くとしたら、そこ（ランピン）に行っていました。その日もそこに（食料を買に行）行ったとき、日本軍が来ていて村の人を集合させていたのです。

問：それはいつのことですか？

モハメッド：1942年です。何月かは覚えていませんが、たぶん5月か6月です。

問：なぜその時にその村に行ったのですか？

モハメッド：食べ物を買に行に店に行ったのです。

問：その頃、あなたはもう日本軍に入っていましたか？

モハメッド：まだです。

問：買おうとした物はどんな物ですか？

モハメッド：米とか、食料品です。

問：その（食料品）店は中国人の店ですか？

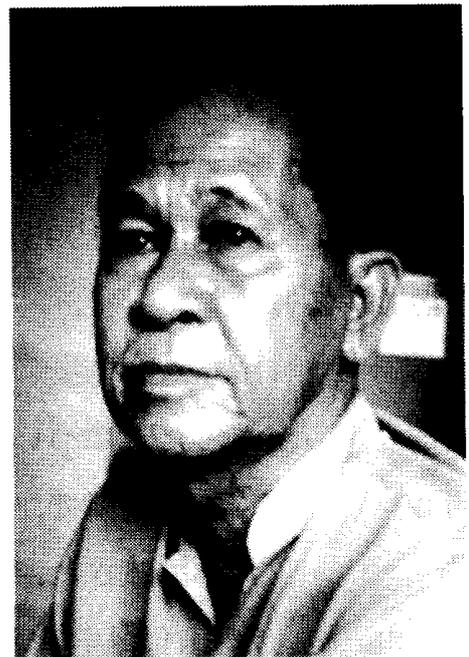
モハメッド：そうです。中国人の店です。

問：その村の住民はみな中国人ですか？

モハメッド：中国人です。マレー人もいましたが、インド人はいませんでした。

問：ほとんどが中国人でしたか？マレー人はそこにいましたか？

モハメッド：日本軍は、村人みんなを呼び集めていました。私たちは日本軍が何をしようとしているのか、（そのときは）わかりませんでした。私たちマレー人



Mohd Noor bin Mohd Sah

〈資料〉

## 日本軍政下のマラヤの エステートの村民 (4)

——ジョホール州における終戦 50 年後の  
インタビューより——<sup>1)</sup>  
ならびに【全体解説】

吉 村 真 子

### 《インタビュー 11 (続き)》

モハメッド・ノア・ビン・モハメッド・サ (Mohd Noor bin Mohd Sah) 氏。現在, 67 歳。1926 年に, ジョホール州コタ・ティンギ, トゥロック・スンガッ (Telok Sengat, Kota Tinggi) のタンジョン・ブアイ村 (Kg.Tj.Buai) で生まれる。父親は漁師で, 本人は小学校卒業後, 両親の仕事を手伝うが, 1944 年に日本軍に友人と入隊 (兵補と思われる) している。1942 年には, ランピン (Lampuing) における華人虐殺の開始の現場に行き合っている (1995 年 8 月 6 日トゥロック・スンガッ・エステートの本人の娘の自宅, および 1996 年 8 月 7 日タンジョン・ブアイ村の本人の自宅において, 2 回にわたってインタビューした。前回の 1995 年の分に引き続いて, 今回は 1996 年の分を掲載する)。

### 〈華人虐殺があった日について〉

問 : この近隣で, 日本軍によって, ある村の住民がみな集められて殺され, 家も焼き払われた事件があり, あなた自身がそれに居合わせたということですが, どういう状況だったのですか?